

市内遺跡調査報告書

第 10 集

市内遺跡調査報告書

第十集

二〇一五

茨城県石岡市教育委員会

2015

茨城県石岡市教育委員会

石岡市埋蔵文化財調査報告書

市内遺跡調査報告書

第 10 集

2015

茨城県石岡市教育委員会

例　　言

1. 本書は平成 25 年度に石岡市が行った試掘調査に関する報告書である。また、平成 12 年度に緊急雇用対策事業として行った厚茂古墳群の測量調査および、平成 7 年度に行った鹿の子遺跡の確認調査（第 13 次）、平成 13 年度に行った舟塚山古墳群 7 号墳の確認調査の概要についても収録した。

2. 調査は石岡市教育委員会が主体となって実施した。

3. 現地調査は小杉山大輔・谷仲俊雄が担当した。また、調査・整理の参加者は、下記の通りである。

五十嵐正 岡田正夫 北山敏道 小松崎利夫 酒井 洋 染谷 茂 藤井 光 牧田保身

山口晋一 吉田幸男 石崎清子 石崎亘子 大野幸枝 小山信子 木間塚千代子 木村友子

鈴木真紀子 長谷川則子 吉野文子

なお、遺構・遺物の実測・トレースは谷仲が、採拓は谷仲・石崎（亘）・吉野が行った。

4. 本書の執筆は、I・II・V は谷仲、III は調査終了時の調査報告（平成 13 年 3 月）をもとに谷仲が行った。IV-1 は調査終了時の概要報告（平成 8 年 3 月）より抜粋し、IV-2 は調査終了時の概要報告（平成 14 年 3 月）を一部改変のうえ収載した。全体の編集は谷仲が行った。

5. 調査に関する遺物・図面・写真等の資料はすべて石岡市教育委員会で保管している。

6. 現地調査及び報告書刊行に当たっては下記の方々からご指導・ご協力をいただいた。ここに記して、感謝申し上げる次第である。（敬称略・五十音順）

茨城県教育庁文化課 常陸風土記の丘

7. 事務局は下記の通りである。

櫻井 信（教育長）、鈴木信充（教育部長）、大関敏文（次長）、武石 誠（文化振興課長）、櫻井浩司（文化振興課課長補佐）、安藤敏孝・木植 繁・小杉山大輔（文化振興課係長）、紙塚ひろみ・谷仲俊雄・長島万梨映（課員）

凡　　例

1. 本書使用の方位は磁北である。ただし、都市計画図を利用した調査地点位置図および図 11・14・40・41・43・44 については座標北である。

2. 本書に掲載した遺物実測図の縮尺は、土器 1 / 3 を基本とした。

なお、それ以外の縮尺の場合はその都度、実測図に縮尺を明記した。

目 次

例 言	32 小倉（未周知）	19
凡 例	33 東ノ辻遺跡	20
目 次	34 国分遺跡	20
I 調査の概要	35 大塚遺跡	20
1 調査の概要	36 部原五本松遺跡	20
2 試掘調査の方法	37 尼寺ヶ原遺跡	20
II 試掘調査（平成 25 年度）	38 舟塚山古墳群	21
1 川又（未周知）	39 東光台（未周知）	21
2 国分遺跡	40 幸町遺跡	23
3 杉ノ井遺跡（第 5 地点）	41 朝日（未周知）	23
4 東ノ辻遺跡	42 宮平遺跡	23
5 国分遺跡	43 鹿の子遺跡（第 50 次）	23
6 東ノ辻遺跡	44 府中城跡（第 7 地点）	25
7 柿岡（未周知）	45 杉ノ井遺跡（第 7 地点）	25
8 国分遺跡	46 木間塚遺跡（第 16 地点）	26
9 宮部遺跡（第 8 地点）	47 木間塚遺跡（第 17 地点）	26
10 鹿の子遺跡（第 46 次）	48 高根遺跡	27
11 鹿の子遺跡（第 47 次）	49 根古屋遺跡（第 5 次）	27
12 石岡（未周知）	50 須鎌堀内遺跡（第 2 地点）	28
13 水内遺跡	51 八軒台掩蔽壕	29
14 木間長者屋敷遺跡	52 高根遺跡	30
15 尼寺ヶ原遺跡	53 弥陀ノ台遺跡	30
16 大塚遺跡	54 須鎌堀内遺跡（第 3 地点）	32
17 田崎遺跡	55 杉ノ井遺跡（第 8 地点）	32
18 東ノ辻遺跡	56 鹿の子遺跡（第 51 次）	34
19 吉生（未周知）	57 柿岡（未周知）	34
20 宮部遺跡（第 9 地点）	III 測量調査	
21 杉ノ井遺跡（第 6 地点）	1 厚茂古墳群（平成 12 年度）	35
22 鹿の子遺跡（第 48 次）	IV 確認調査	
23 柿岡鴻の巣遺跡	1 鹿の子遺跡（第 13 次）（平成 7 年度）	39
24 木間塚遺跡（第 14 地点）	2 舟塚山古墳群 7 号墳（平成 13 年度）	43
25 木間塚遺跡（第 15 地点）	V 埋蔵文化財包蔵地の新規登録と範囲変更	
26 根小屋（未周知）	（平成 25・26 年度）	49
27 宮部遺跡（第 10 地点）		
28 鹿の子遺跡（第 49 次）		
29 柿岡池下遺跡（第 1 地点 - 6）		
30 片岡（未周知）		
31 小幡（未周知）		

I 調査の概要

1 調査の概要

試掘調査は基本的には遺跡の範囲内を行うが、範囲外であっても現地踏査の結果、地形等から遺跡の存在する可能性があると判断した場合、または、開発面積が広大である場合には範囲外であっても試掘調査を行った。また、現地踏査を行った結果、アスファルトなどで覆われていて遺跡の現状が把握しきれなかったものに対しては、試掘調査を必ずしも行わず、工事立会いを行ったものもある。

2 試掘調査の方法

試掘調査は開発予定地内に数mの大きさのトレンチを設定し、重機（バックホー）及び人力により、地山上面まで掘り下げ、遺構の有無を確認した。遺構か否か判断が困難な場合は、サブトレンチを設定するなど一部精査を行い、遺構の確認をおこなった。また、遺跡の時期や性格を判断するため、遺構であっても、あえてサブトレンチを設定し、掘り下げた場合もある。遺物は表面採集、トレンチ覆土中出土、遺構出土にわけて取り上げた。

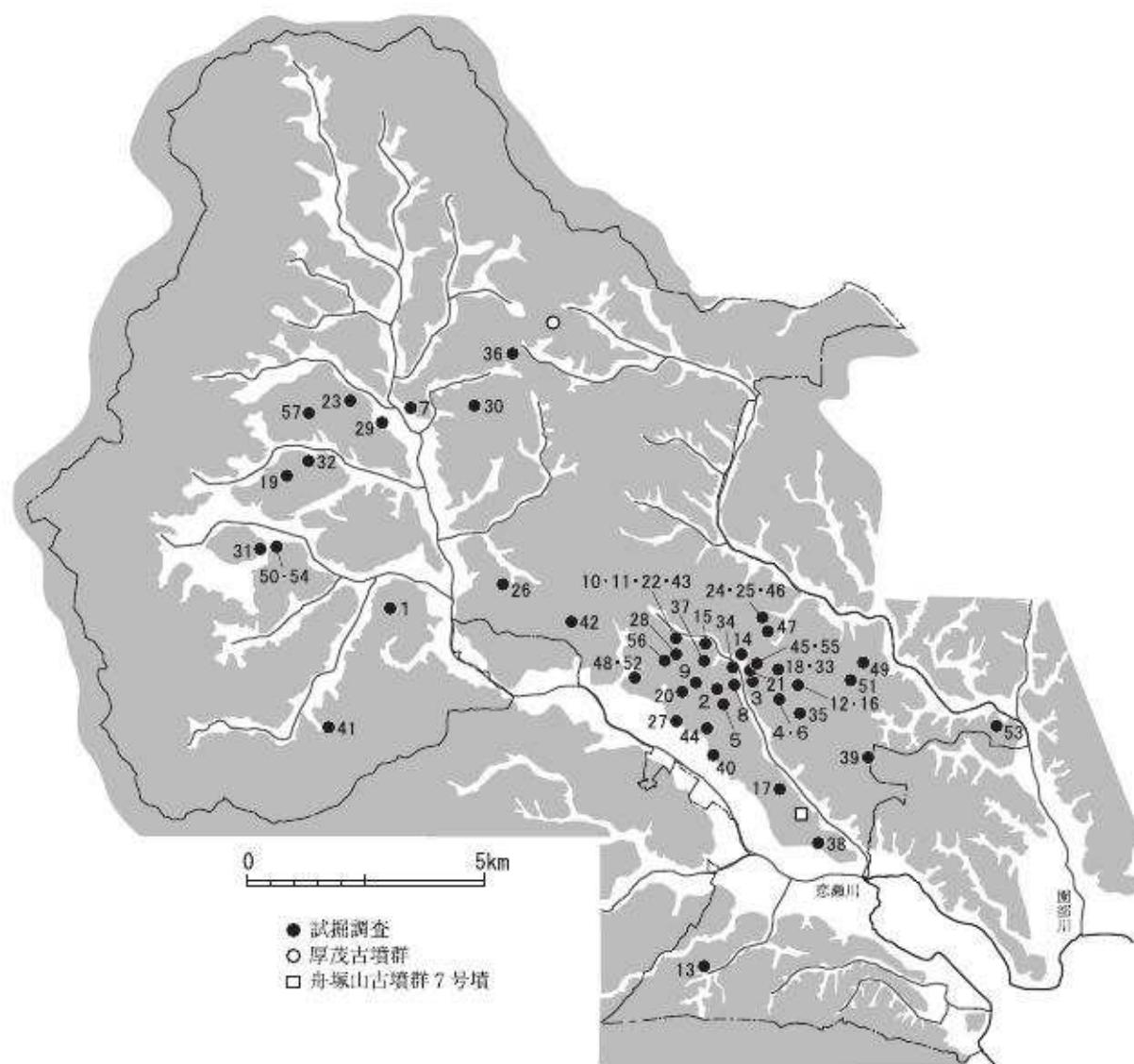


図1 本書所収の遺跡位置図

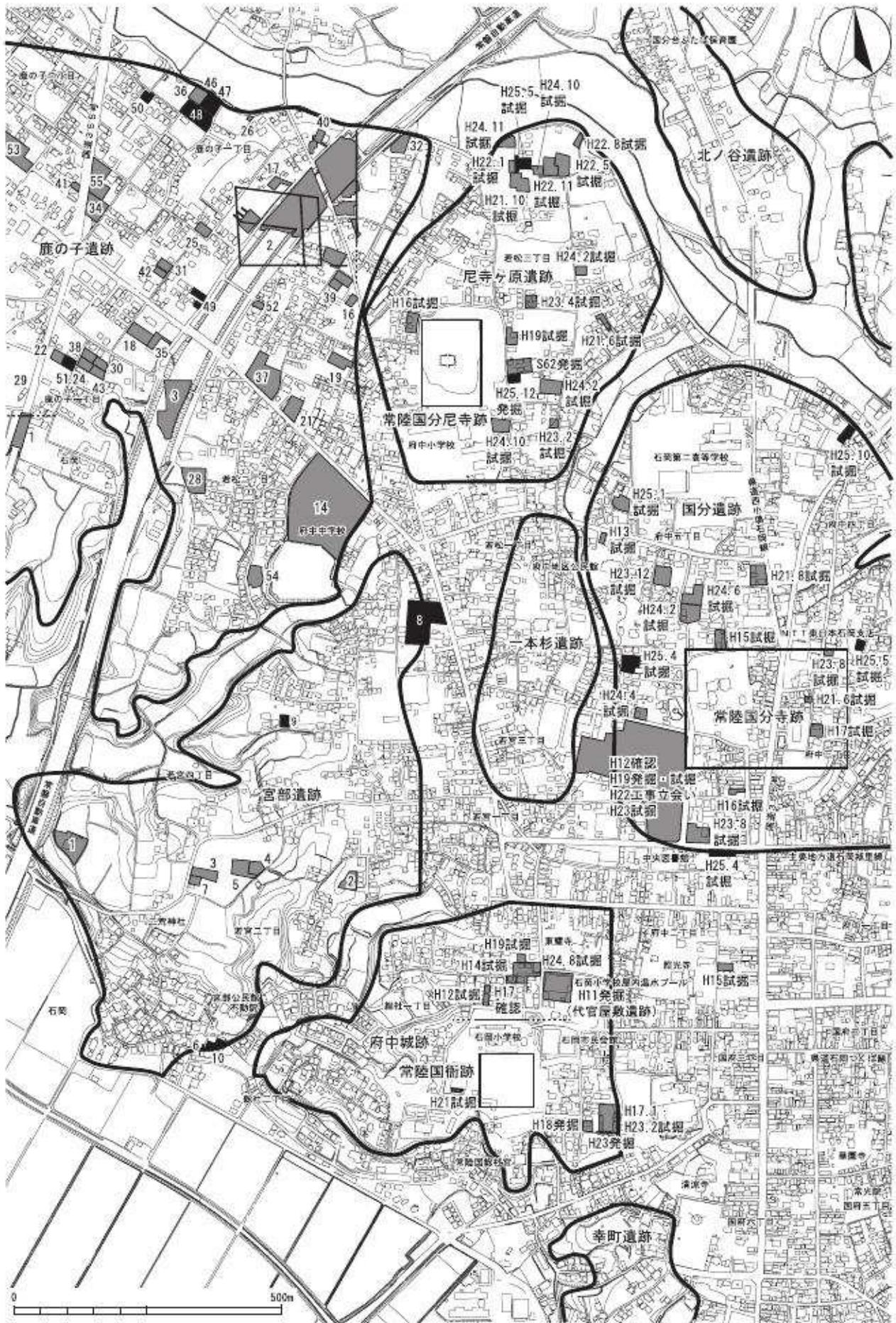


図2 常陸国衙跡・常陸国分寺跡・常陸国分尼寺跡ほか調査地点位置図 (S=1/10,000)

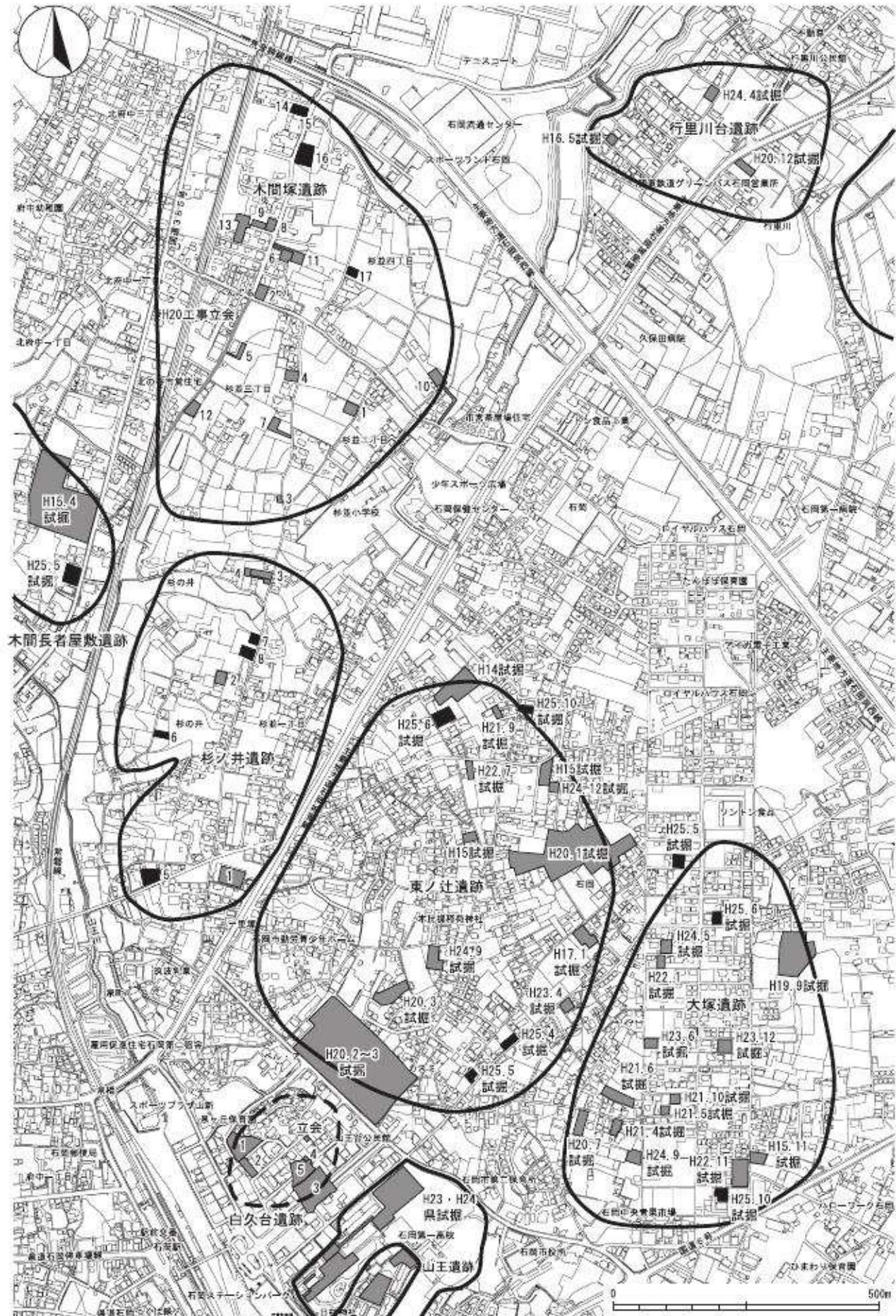


図3 木間塚遺跡・東ノ辻遺跡・大塚遺跡ほか調査地点位置図 (S=1/10,000)

II 試掘調査（平成 25 年度）

1 川又（未周知）

①所在地 石岡市川又字中沢 922 番 3 ②開発面積 497m² ③調査日 平成 25 年 4 月 11 日 ④調査原因 個人住宅建設 ⑤調査担当者 谷仲俊雄 ⑥調査概要 開発区域内に 12ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、遺構・遺物は確認されなかった。地山確認面までの深さは 0.2 ~ 0.25m。



写真1 川又 調査風景

2 国分遺跡

①所在地 石岡市府中 2 丁目 847 ほか ②開発面積 467m² ③調査日 平成 25 年 4 月 12 日 ④調査原因 個人住宅建設 ⑤調査担当者 谷仲俊雄 ⑥調査概要 開発区域内に 2ヶ所の試掘トレンチを重機にて設定し、遺跡の有無を確認した。各トレンチにおいて 1.1 ~ 1.45m 程度の掘り下げを行ったが、地山は確認できなかった。したがって、当地は過去の造成によって大きく改変されているものと判断した。遺物も出土していない。



写真2 国分遺跡 調査風景

3 杉ノ井遺跡（第 5 地点）

①所在地 石岡市杉の井 12745 番 1 ②開発面積 846m² ③調査日 平成 25 年 2 月 13 日、平成 25 年 4 月 18 日 ④調査原因 長屋住宅建設 ⑤調査担当者 谷仲俊雄 ⑥調査概要 開発地は平成 25 年 2 月に試掘調査を行い、奈良・平安時代の竪穴住居跡や土坑、ピットなどが確認されている。詳細な開発計画が決定したことから、追加の試掘調査を行った。前回の試掘調査とあわせて報告する。開発区域内に 9ヶ所の試掘トレンチを設定し、遺跡の有無を確認した（図 4）。その結果、開発区域の西側において、竪穴住居跡 4軒および土坑 6基などを確認した。SI01 と SI02 は T-2 において確認した。SI01 はカマドと北西部分が確認できただけだが、カマドが北壁中央部に付設されていたとすると、辺 3m 程度に復元できる。SI02 は SI01 の北東側において確認した。東西長約 3.5m。切り合ひ関係から SI01 に先行する。SI03 は T-7 において確認した。南北長約 2.5m で、北壁にカマドが付設されている。SI04 は T-9 において確認した。南北長 3m 程度。須恵器の長頸瓶が出土している（写真 3・6・7）。遺物については別途報告する。



写真3 杉ノ井遺跡（第5地点）
SI04 出土遺物

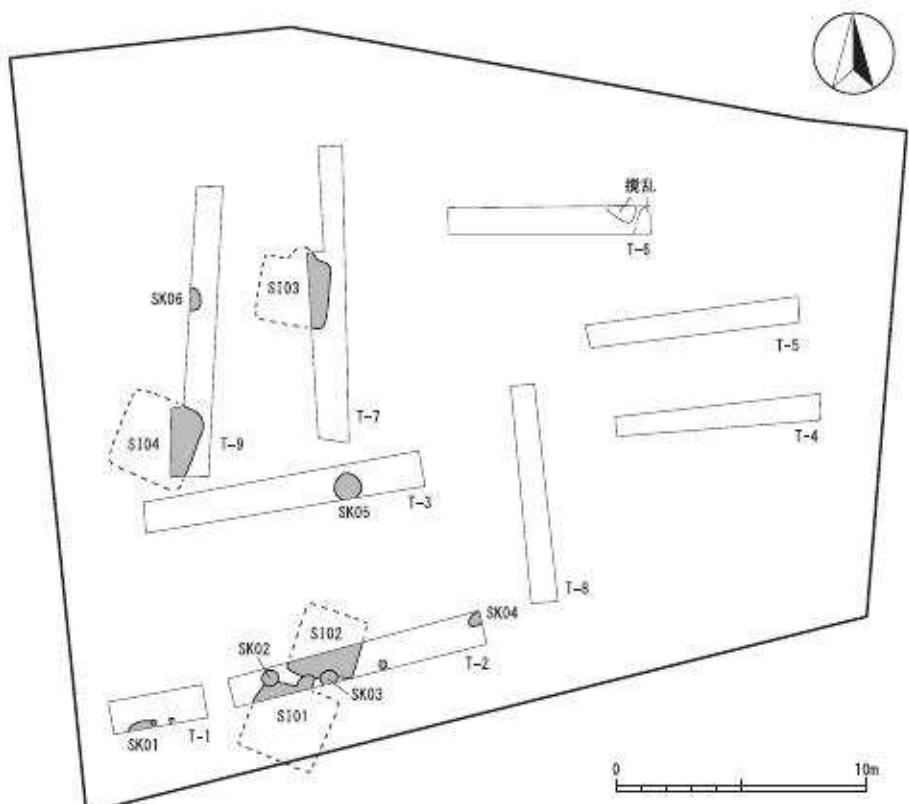


図4 杉ノ井遺跡（第5地点）全体図（S=1/300）



写真4 全景（北東から）



写真5 T-7 SI03（南から）



写真6 T-9 SI04（南から）



写真7 T-9 SI04（北東から）

4 東ノ辻遺跡

①所在地 石岡市石岡字大橋道西 2551-1 ②開発面積 460m² ③調査日 平成 25 年 4 月 23 日 ④調査原因 個人住宅建設 ⑤調査担当者 谷仲俊雄 ⑥調査概要 開発区域内に 10 ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。開発区域の南側において埋没谷を確認したが、遺構・遺物は確認されなかった。地山確認面までの深さは 0.5 ~ 0.6m 程度。



写真8 東ノ辻遺跡 調査風景 (北から)

5 国分遺跡

①所在地 石岡市府中 5 丁目 7913-4 の一部 ②開発面積 899m² ③調査日 平成 25 年 4 月 30 日 ④調査原因 集合住宅建設 ⑤調査担当者 谷仲俊雄 ⑥調査概要 開発区域内に 8 ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。表土中および搅乱より土器・瓦片が出土したが、遺構は確認されなかった。ローム面までの深さは 0.3 ~ 0.6m 程度。また、開発区域の西側で埋没谷を確認した。

6 東ノ辻遺跡

①所在地 石岡市石岡 2536-3、2538-4 ②開発面積 330m² ③調査日 平成 25 年 5 月 1 日 ④調査原因 個人住宅建設 ⑤調査担当者 谷仲俊雄 ⑥調査概要 開発区域内に 10 ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。開発区域の南側において埋没谷を確認したが、遺構・遺物は確認されなかった。地山確認面までの深さは 0.3 ~ 0.4m 程度。

7 柿岡 (未周知)

①所在地 石岡市柿岡 4032 番地 1 先ほか ②開発面積 400m² ③調査日 平成 25 年 5 月 7 日 ④調査原因 市道改良 ⑤調査担当者 谷仲俊雄 ⑥調査概要 開発区域内に 11 ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、遺構・遺物は確認されなかった。地山確認面までの深さは 0.4 ~ 0.55m 程度。 ⑦遺物 1 は土師質土器の皿。橙褐色。黒雲母・黄褐色粒少量、黑色粒・砂粒微量含む。表面採集。



図5 柿岡 調査地点位置図 (S=1/15,000)

8 国分遺跡

①所在地 石岡市府中 4 丁目 8172 番 ②開発面積 296m² ③調査日 平成 25 年 5 月 9 日 ④調査原因 個人住宅建設 ⑤調査担当者 谷仲俊雄 ⑥調査概要 開発区域内に 2 ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した (図 8)。その結果、開発区域の全域で埋没谷を確認したが、遺構は確認されなかった。埋没谷確認面までの深さは、開発区域の南側では 0.52m、北側では 0.86m で、北側のはうが深くなっている。また、T-1 の南端にサブトレンチを設定し、掘り下げを行った。埋没谷の深さは 45cm 程度。表土中および埋没谷覆土より奈良・平安時代の土器・瓦片が出土している。

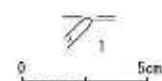


図6 柿岡 採集遺物 (S=1/3)

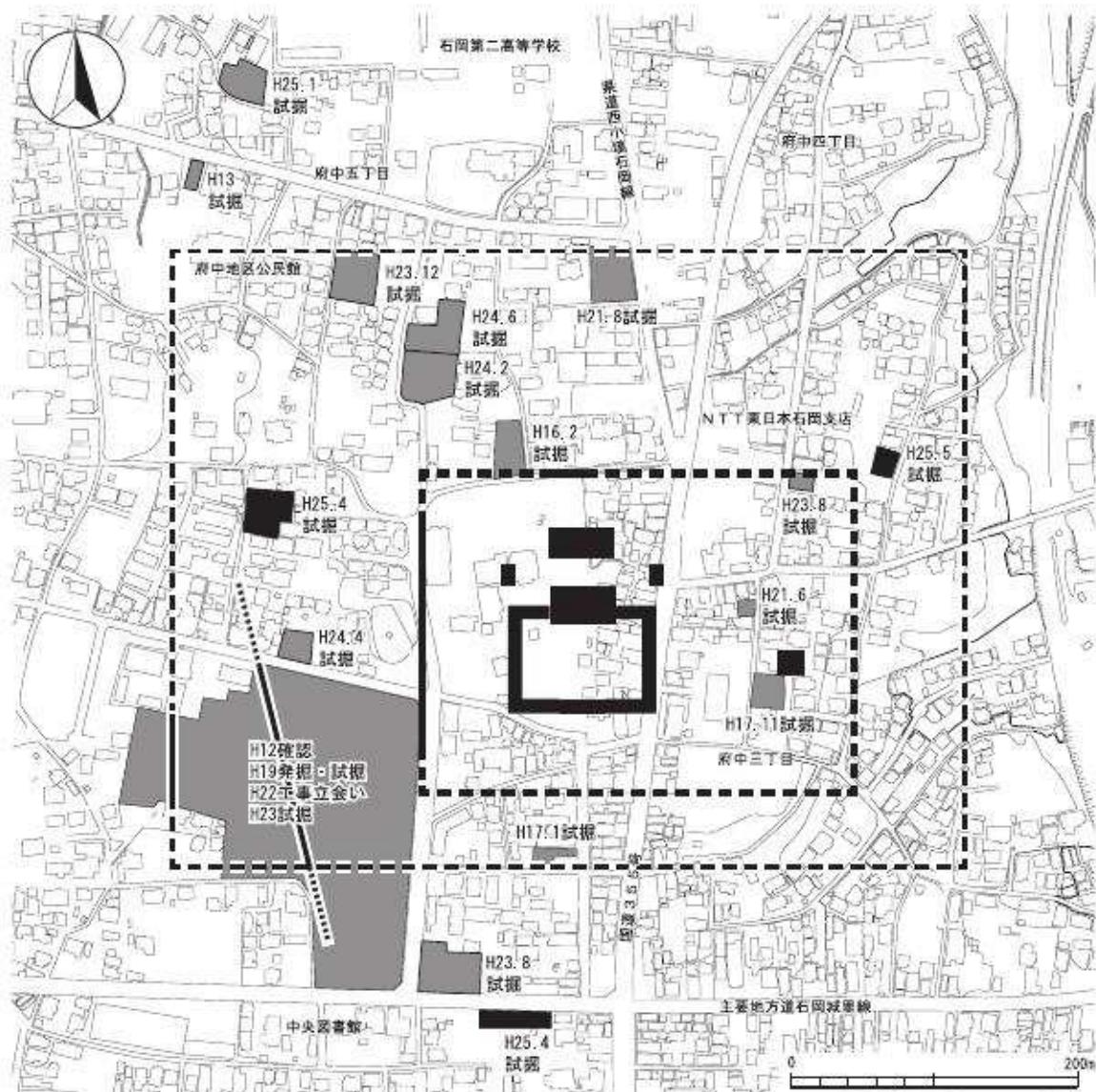


図7 常陸国分寺跡・国分遺跡 調査地点位置図 (S=1/5,000)

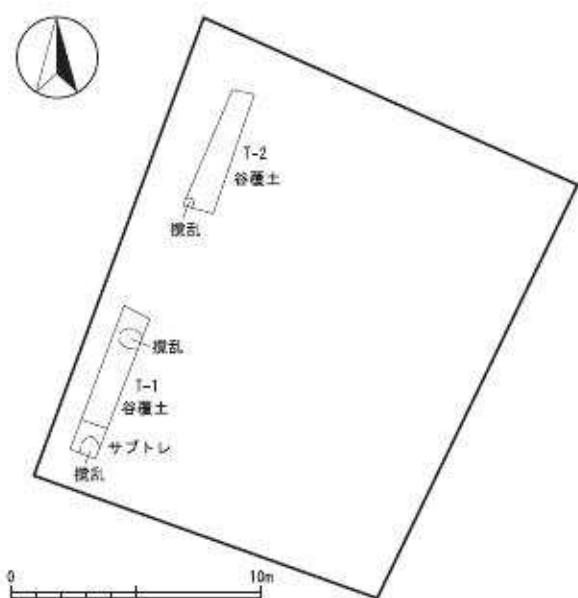


図8 国分遺跡 全体図 (S=1/300)



写真9 国分遺跡 調査風景 (北東から)

9 宮部遺跡（第8地点）（範囲変更）

①所在地 石岡市若松1丁目8115-1ほか ②開発面積 4,482m² ③調査日 平成25年5月14日、7月2日
 ④調査原因 店舗建設 ⑤調査担当者 谷仲俊雄 ⑥調査概要 開発区域は宮部遺跡の周辺地にあたることから、試掘調査を行った。開発区域内に9ヶ所の試掘トレンチを重機にて設定し、遺跡の有無を確認した（図9）。その結果、開発区域の西側において、奈良・平安時代の竪穴住居跡や土坑を確認した。この結果を受け、宮部遺

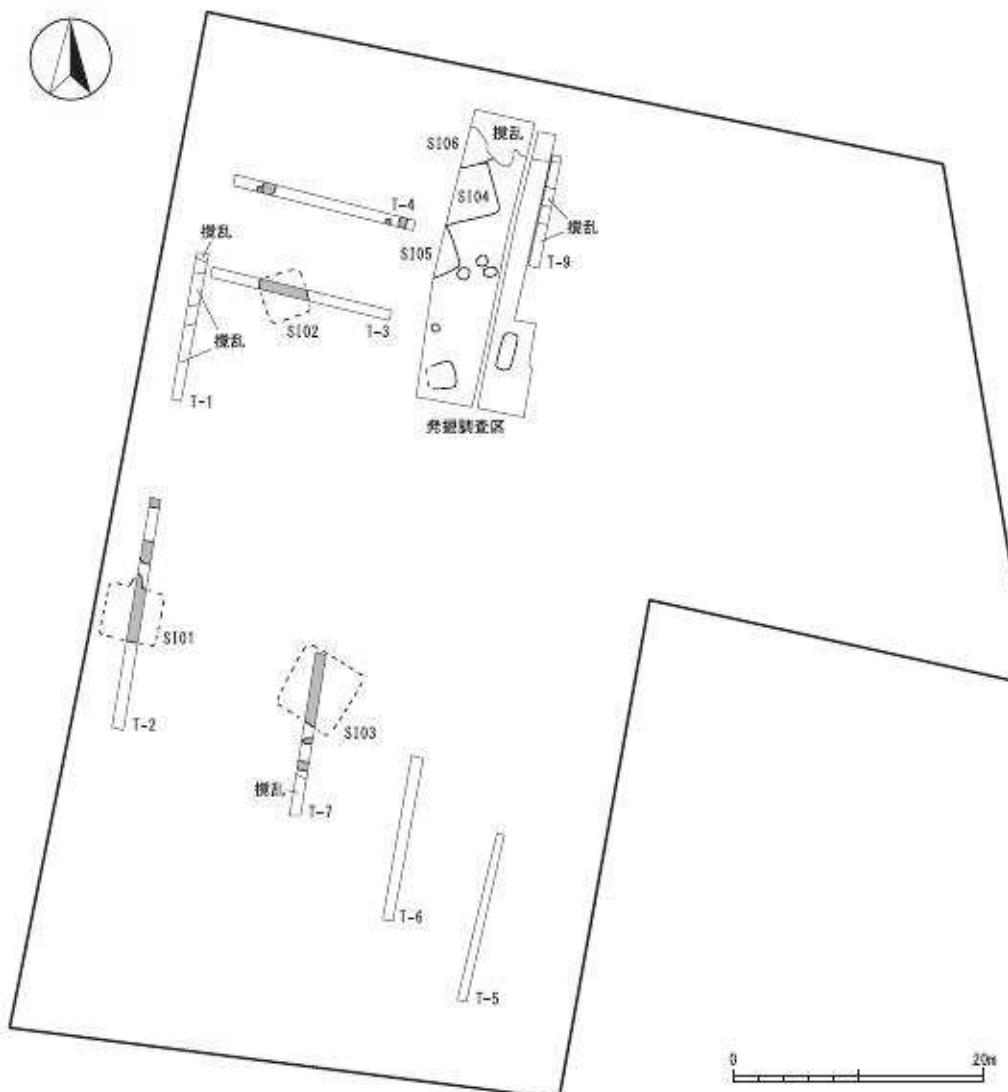


図9 宮部遺跡（第8地点）全体図 (S=1/600)



写真10 全景（北から）



写真11 T-3（西から）

跡の範囲を拡大した。この開発に伴い、平成25年度に発掘調査を実施し、「宮部遺跡（第8地点）一店舗建設に伴う発掘調査」（2014年、石岡市教育委員会・有限会社毛野考古学研究所）を刊行している。

10 鹿の子遺跡（第46次）

①所在地 石岡市鹿の子1丁目9607番 ②開発面積 602m² ③調査日 平成25年5月21日 ④調査原因 個人住宅建設 ⑤調査担当者 谷仲俊雄 ⑥調査概要 開発区域内に5ヶ所の試掘トレンチ（T-1～5）を人力にて設定し、遺跡の有無を確認した（図11）。その結果、開発区域の南西端ではローム層が確認されたが（T-1・5）、そのほかでは埋没谷が確認された（T-2～4）。T-3・4では谷覆土の掘り下げを行ったところ、湧水が認められた。谷覆土を含め、遺構・遺物は確認されなかった。

11 鹿の子遺跡（第47次）

①所在地 石岡市鹿の子1丁目9573番 ②開発面積 264m² ③調査日 平成25年5月21日 ④調査原因 個人住宅建設 ⑤調査担当者 谷仲俊雄 ⑥調査概要 開発区域内に2ヶ所の試掘トレンチ（T-6・7）を人力にて設定し、遺跡の有無を確認した（図11）。その結果、埋没谷が確認されたが、遺構・遺物は確認されなかった。また、各トレンチにおいて埋没谷の掘り下げを行ったところ、湧水が認められた。

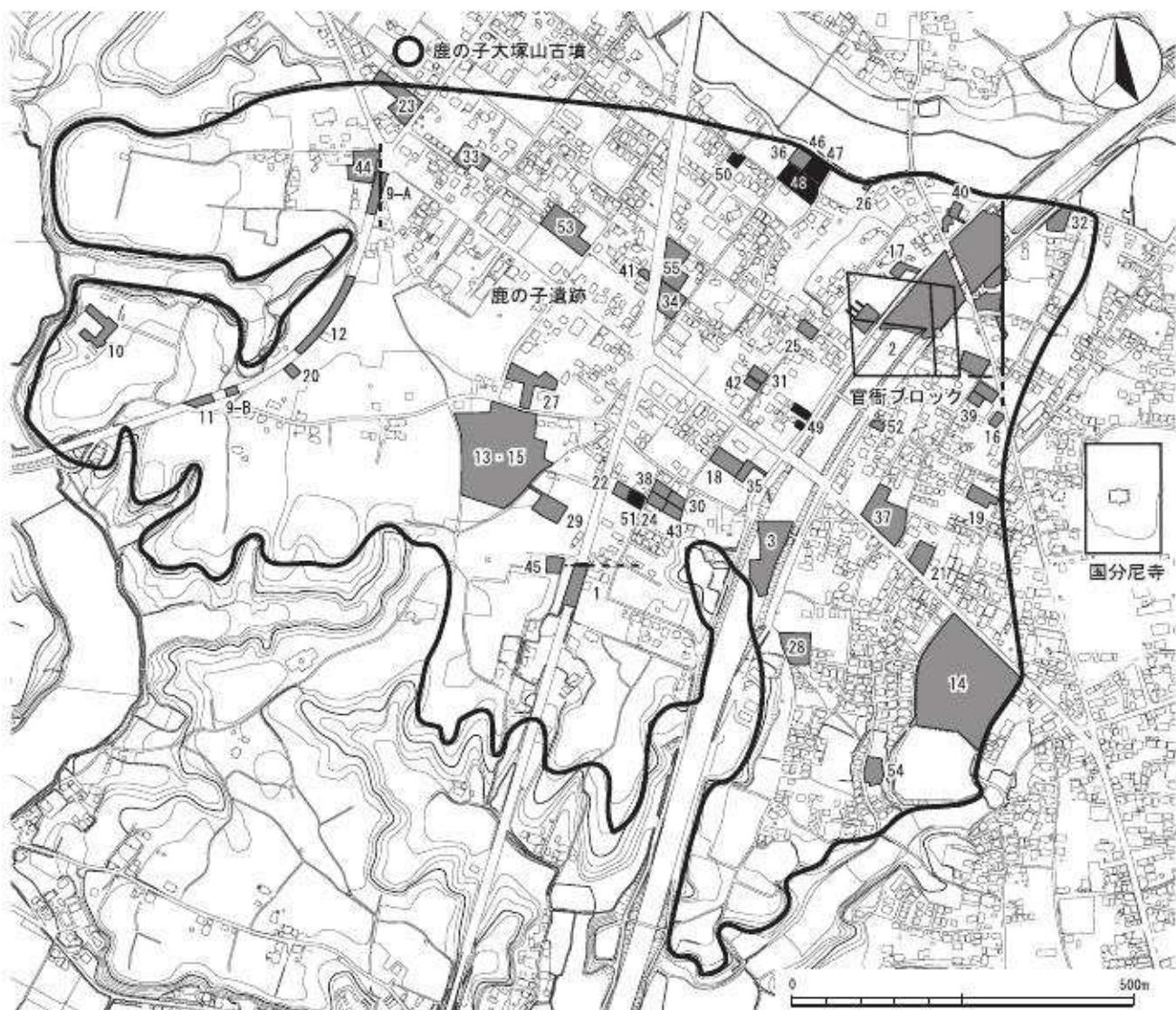


図10 鹿の子遺跡 調査地点位置図 (S=1/10,000)

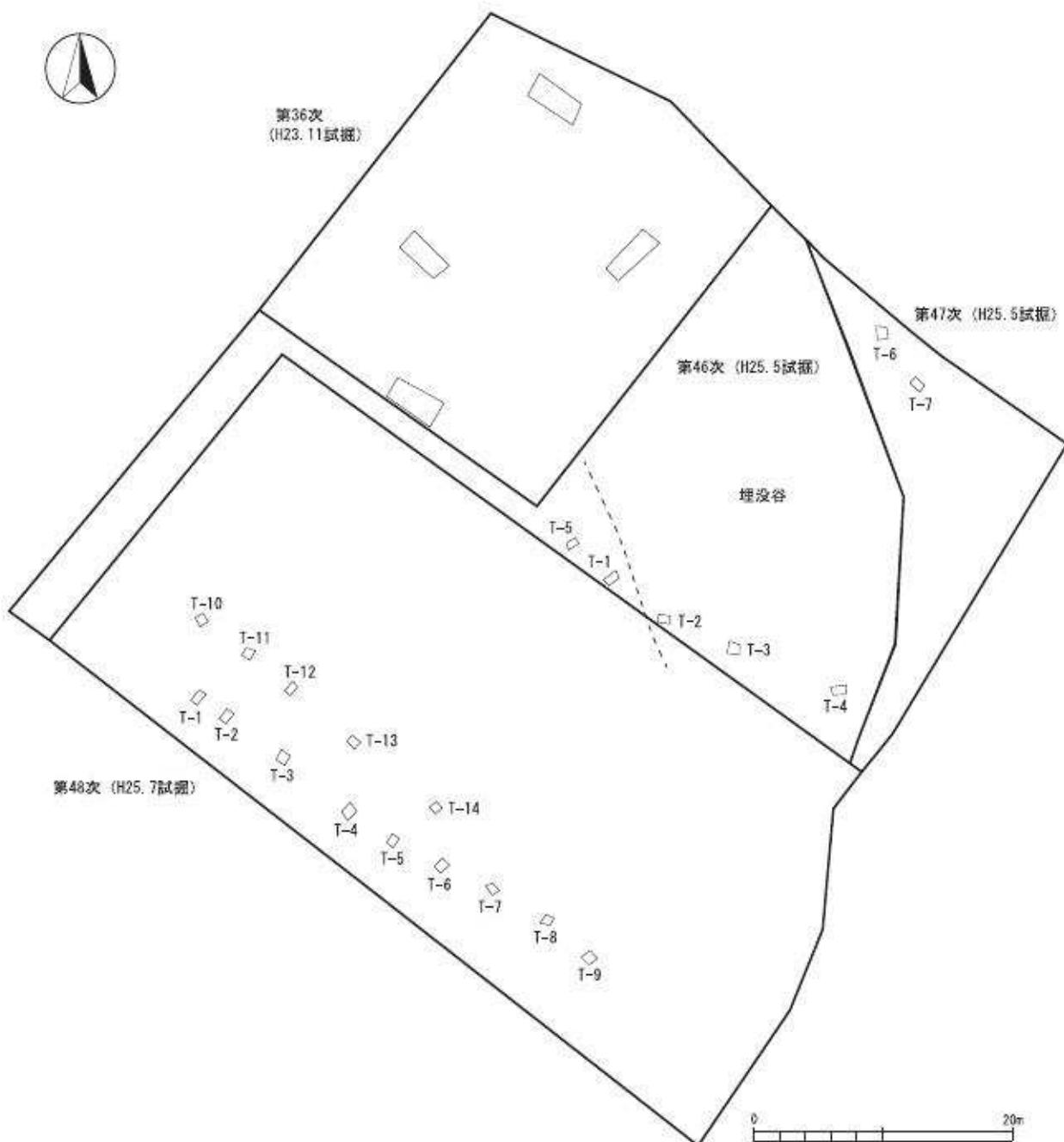


図 11 鹿の子遺跡（第 46・47・48 次）全体図 (S=1/500)

12 石岡（未周知）

①所在地 石岡市石岡 13940-5 ②開発面積 532m² ③調査日 平成 25 年 5 月 22 日 ④調査原因 個人住宅建設
 ⑤調査担当者 谷仲俊雄 ⑥調査概要 開発区域内に 6 ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、遺構・遺物は確認されなかった。

13 水内遺跡

①所在地 石岡市三村字姥神 2511-134 ②開発面積 480m² ③調査日 平成 25 年 5 月 23 日 ④調査原因 グループケアホーム建設 ⑤調査担当者 谷仲俊雄 ⑥調査概要 開発区域内に 13 ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、遺構・遺物は確認されなかった。ローム面までの深さは 0.5 ~ 0.77m 程度。

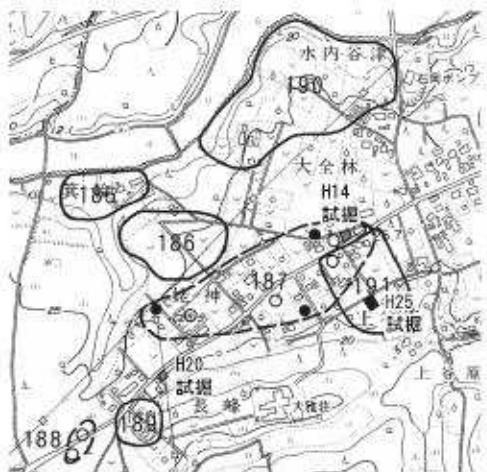


図 12 水内遺跡 調査地点位置図 (S=1/15,000)



写真 12 水内遺跡 調査風景

14 木間長者屋敷遺跡

①所在地 石岡市北府中1丁目12494-1 ②開発面積 977m² ③調査日 平成25年5月28日 ④調査原因 共同住宅建設 ⑤調査担当者 谷仲俊雄 ⑥調査概要 開発区域内に11ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、表土中および搅乱より土器片（平安時代）が出土したが、遺構は確認されなかった。ローム面までの深さは0.2～0.45m程度。

⑦遺物 1は試掘トレンチの表土中から出土した土師器の高台焼。外面暗褐～にぶい褐色、内面黒色。漆仕上げ。針状物・白色粒・半透明粒・白雲母少量含む。焼成良好。



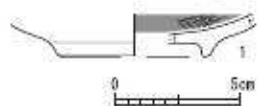


図 13 木間長者屋敷遺跡
出土遺物 (S=1/3)

15 尼寺ヶ原遺跡

①所在地 石岡市若松3丁目8678-1 ②開発面積 686m² ③調査日 平成25年5月30日 ④調査原因 長屋
住宅建設 ⑤調査担当者 谷仲俊雄 ⑥調査概要 開発区域内に10ヶ所の試掘トレーンチを人力にて設定し、遺
跡の有無を確認した。その結果、遺構・遺物は確認されなかった。ローム面までの深さは0.42~0.62m程度。

16 大塚遺跡

①所在地 石岡市石岡字大橋道西 13962 番 1 ②開発面積 385 m² ③調査日 平成 25 年 6 月 5 日 ④調査原因 戸建住宅建設 ⑤調査担当者 谷仲俊雄 ⑥調査概要 開発区域内に 2ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、

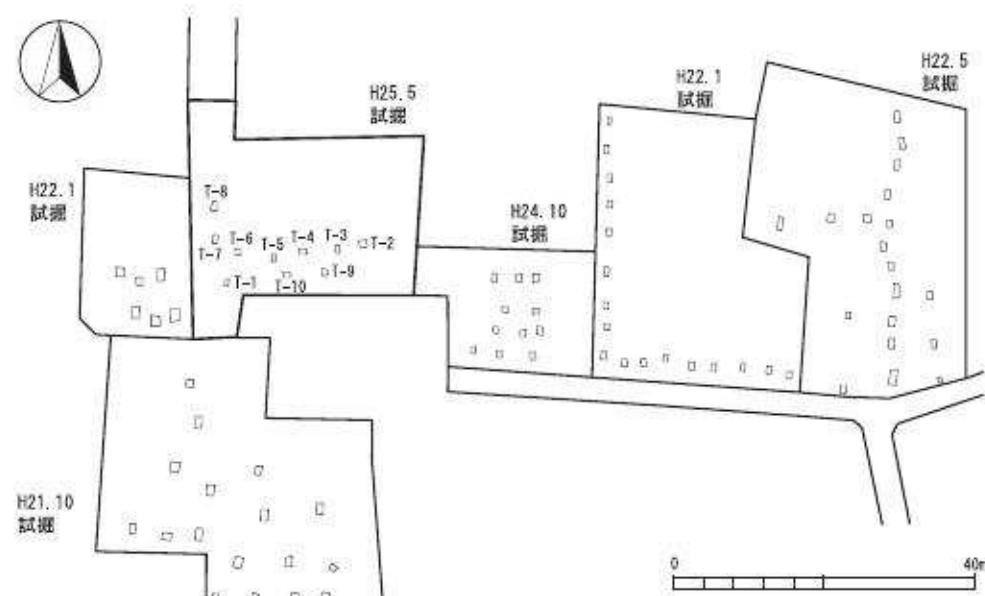


図 14 尼寺ヶ原遺跡 全体図 (S=1/1,000)

遺構・遺物は確認されなかった。ローム面までの深さは 0.42 ~ 0.54m 程度。

17 田崎遺跡（第 4 地点）

①所在地 石岡市茨城 3 丁目 14377 番 2 ②開発面積 2,298 m² ③調査日 平成 25 年 2 月 20 日 ~ 21 日、3 月 11 日、6 月 10 日 ④調査原因 宅地造成 ⑤調査担当者 谷仲俊雄 ⑥調査概要 開発地は平成 25 年 2 月 ~ 3 月に試掘調査を行い、中世の土坑が確認されている。詳細な開発計画が決定したことから、追加の試掘調査を行った。その結果、中世の土坑などを確認した（第 4 地点、図 16）。平成 26 年度に個人住宅の建設に伴い、北東部分（第 4 地点 - 2）、北西部（第 4 地点 - 3）の試掘調査を実施した。うち、第 4 地点 - 3 では発掘調査を実施しており、発掘調査報告書にて合わせて報告する。



写真 13 大塚遺跡 調査風景（北東から）

18 東ノ辻遺跡

①所在地 石岡市石岡字並木東 2254-1 の一部 ②開発面積 995 m² ③調査日 平成 25 年 6 月 18 日 ④調査原因 共同住宅建設 ⑤調査担当者 谷仲俊雄 ⑥調査概要 開発区域内に 10ヶ所の試掘トレンチを人力にて設

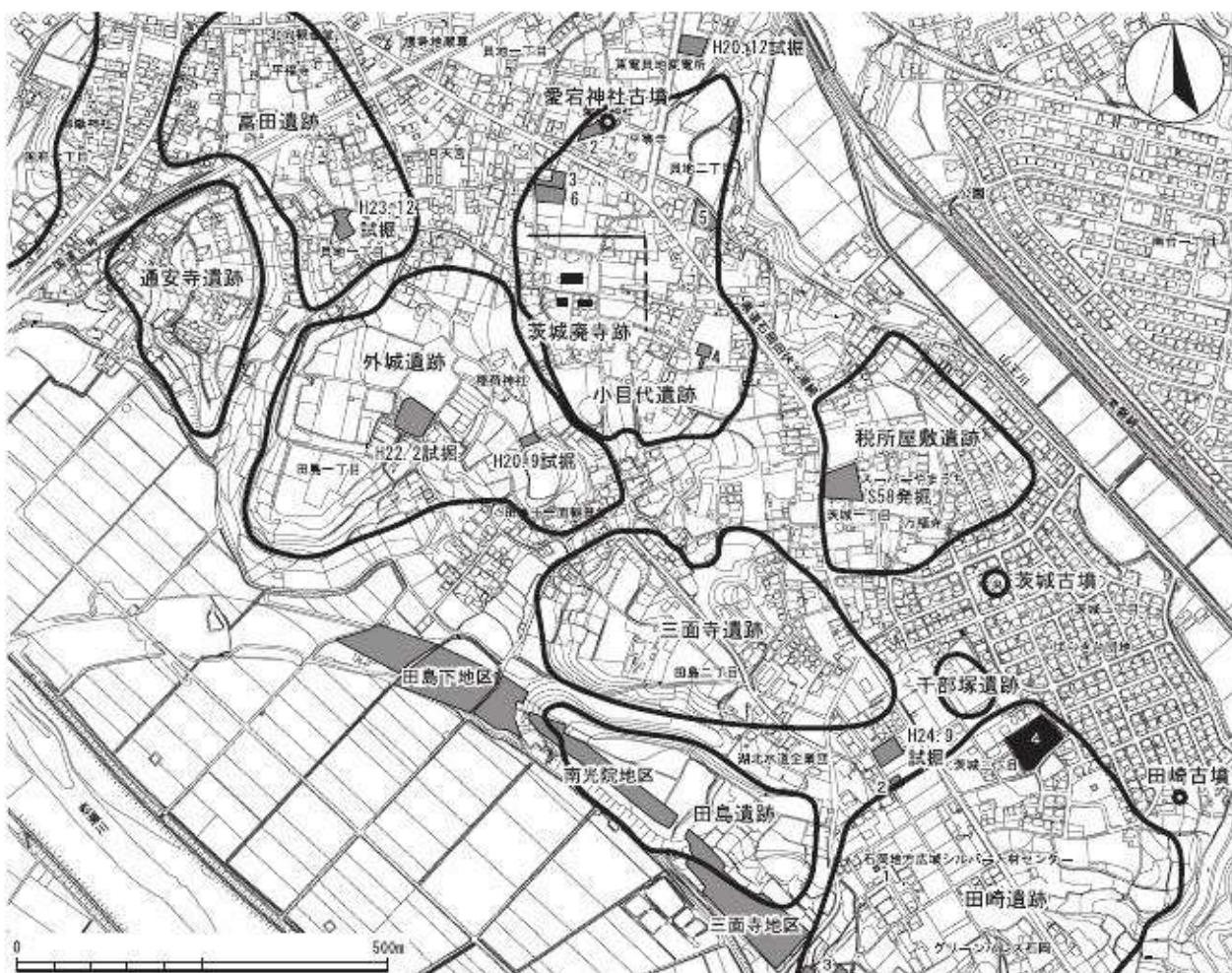


図 15 田崎遺跡 調査地点位置図 (S=1/10,000)

定し、遺跡の有無を確認した。その結果、遺構・遺物は確認されなかった。ローム面までの深さは、開発地の北側では 0.45 ~ 0.6m、中央では 0.25 ~ 0.3m 程度。

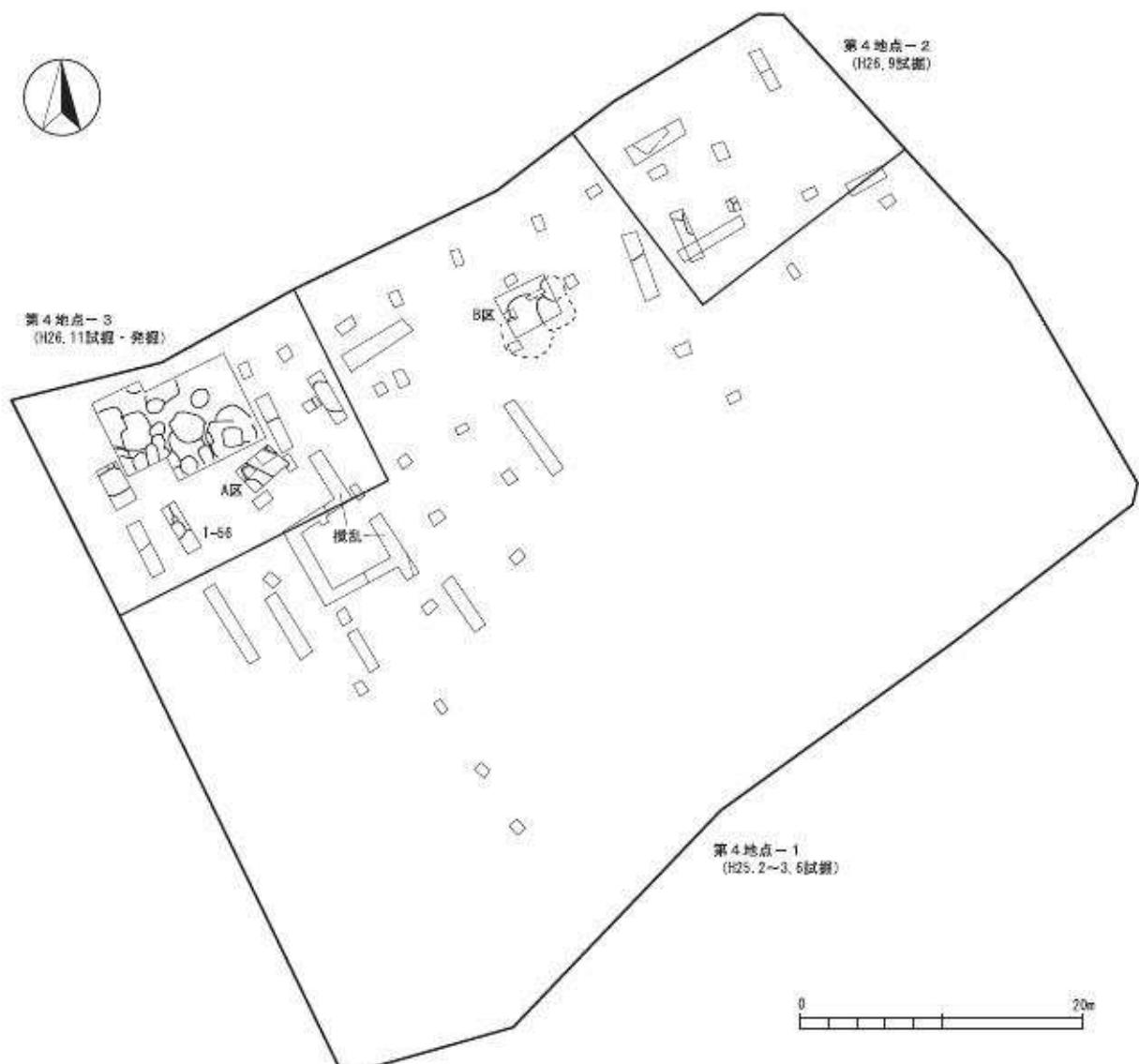


図 16 田崎遺跡 全体図 (S=1/500)



写真 14 T-56 (北から)



写真 15 B区 (北西から)

19 吉生（未周知）

①所在地 石岡市吉生字草倉 151 番 2 ②開発面積 35,094m² ③調査日 平成 25 年 6 月 25 日 ④調査原因 大規模太陽光発電施設設置 ⑤調査担当者 谷仲俊雄 ⑥調査概要 開発区域内に 6ヶ所の試掘トレンチを設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、遺構・遺物は確認されなかった。地山までの深さは 0.6 ~ 1m 程度。

20 宮部遺跡（第 9 地点）

①所在地 石岡市若宮 4 丁目 7969 番 1 ②開発面積 353m² ③調査日 平成 25 年 7 月 5 日 ④調査原因 個人住宅建設 ⑤調査担当者 谷仲俊雄 ⑥調査概要 開発区域内に 7ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した（図 17）。その結果、竪穴住居跡 2軒（SI01 ~ 02）および土坑 2基（SK01 ~ 02）を確認した。遺構確認面までの深さは 0.3 ~ 0.45m 程度。奈良・平安時代の土器（土師器・須恵器）、縄文土器、土師質土器が出土している。⑦遺物 1 は縄文土器。にぶい褐色。白雲母・白色粒少量、半透明粒微量含む。T-6 出土。2 は土師器の塊。橙褐色。白雲母多量、黒雲母・白色粒・砂粒微量含む。T-5 出土。3 は土師質土器の擂鉢。褐色。白雲母、白色粒・黑色粒少量、黄褐色粒微量含む。焼成良好。T-7 出土。

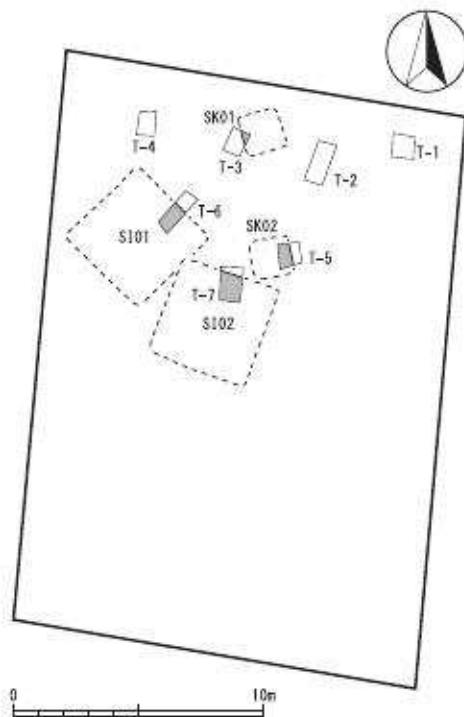


図 17 宮部遺跡（第 9 地点）全体図
(S=1/300)

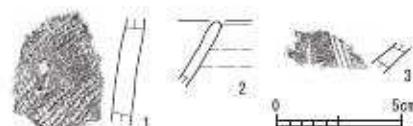


図 18 出土遺物 (S=1/3)

21 杉ノ井遺跡（第 6 地点）

①所在地 石岡市杉の井 12680 番 4 ②開発面積 331m² ③調査日 平成 25 年 7 月 10 日 ④調査原因 個人住宅建設 ⑤調査担当者 谷仲俊雄 ⑥調査概要 開発区域内に 11ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した（図 19）。その結果、竪穴住居跡 1軒（SI01）および土坑 1基（SK01）を確認した。遺構確認面までの深さは 0.3 ~ 0.45m 程度。奈良・平安時代の土器が出土している。SI01 は北壁にカマドが付設

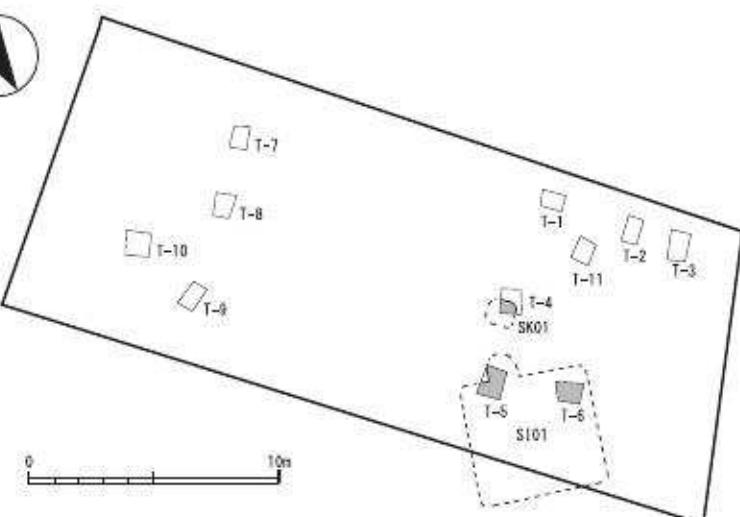


図 19 杉ノ井遺跡（第 6 地点）全体図 (S=1/300)

されている。⑦遺物 1 ~ 3 は T-5, SI01 カマド周辺から出土。1 は土師器の塊。外面橙褐色～にぶい褐色、内面黒色。炭素吸着による黒色処理。白雲母、黒雲母・黄褐色粒・黑色粒少量、白色粒微量含む。焼成良好。2 は土師器の塊。外面橙褐色～にぶい褐色、内面黒色。炭素吸着による黒色処理。白雲母、黒雲母・黄褐色粒・黑色粒少量、白色粒微量含む。3 は土師器の甕。外面淡褐色～黒褐色、内面黒～黒褐色。黑色粒少量、白雲母・白色粒微量含む。焼成良好。

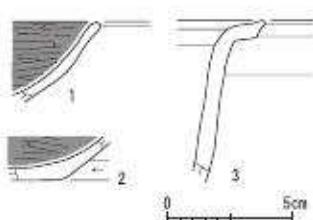


図 20 出土遺物 (S=1/3)

22 鹿の子遺跡（第48次）

①所在地 石岡市鹿の子1丁目9607-4、9607-5 ②開発面積 399m² ③調査日 平成25年7月18日 ④調査原因 個人住宅建設 ⑤調査担当者 谷伸俊雄 ⑥調査概要 開発区域内に14ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した（図11）。その結果、遺構・遺物は確認されなかった。ローム面までの深さは0.32～0.45m程度。

23 柿岡鴻の巣遺跡（新発見）

①所在地 石岡市柿岡3606-1ほか ②開発面積 33.945m² ③調査日 平成25年7月26日～9月27日 ④調査原因 市道新設 ⑤調査担当者 小杉山大輔 ⑥調査概要 開発区域内に106ヶ所の試掘トレンチを設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、古墳時代、奈良・平安時代の竪穴住居跡を確認したことから、平成25年9月12日付で「遺跡発見の通知」を茨城県教育委員会に提出した。この開発に伴い、平成25年度に発掘調査を実施し、竪穴住居跡16軒（古墳時代13、奈良・平安時代3）、鍛冶工房1軒（古墳時代）を検出した。詳細は発掘調査報告書に譲る。

24 木間塚遺跡（第14地点）

①所在地 石岡市杉並4丁目12984番22 ②開発面積 290m² ③調査日 平成25年8月6日 ④調査原因 個人住宅建設 ⑤調査担当者 谷伸俊雄 ⑥調査概要 開発区域内に5ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、遺構・遺物は確認されなかった。ローム面までの深さは0.32～0.57m程度。

25 木間塚遺跡（第15地点）

①所在地 石岡市杉並4丁目12984番11 ②開発面積 231m² ③調査日 平成25年8月6日 ④調査原因

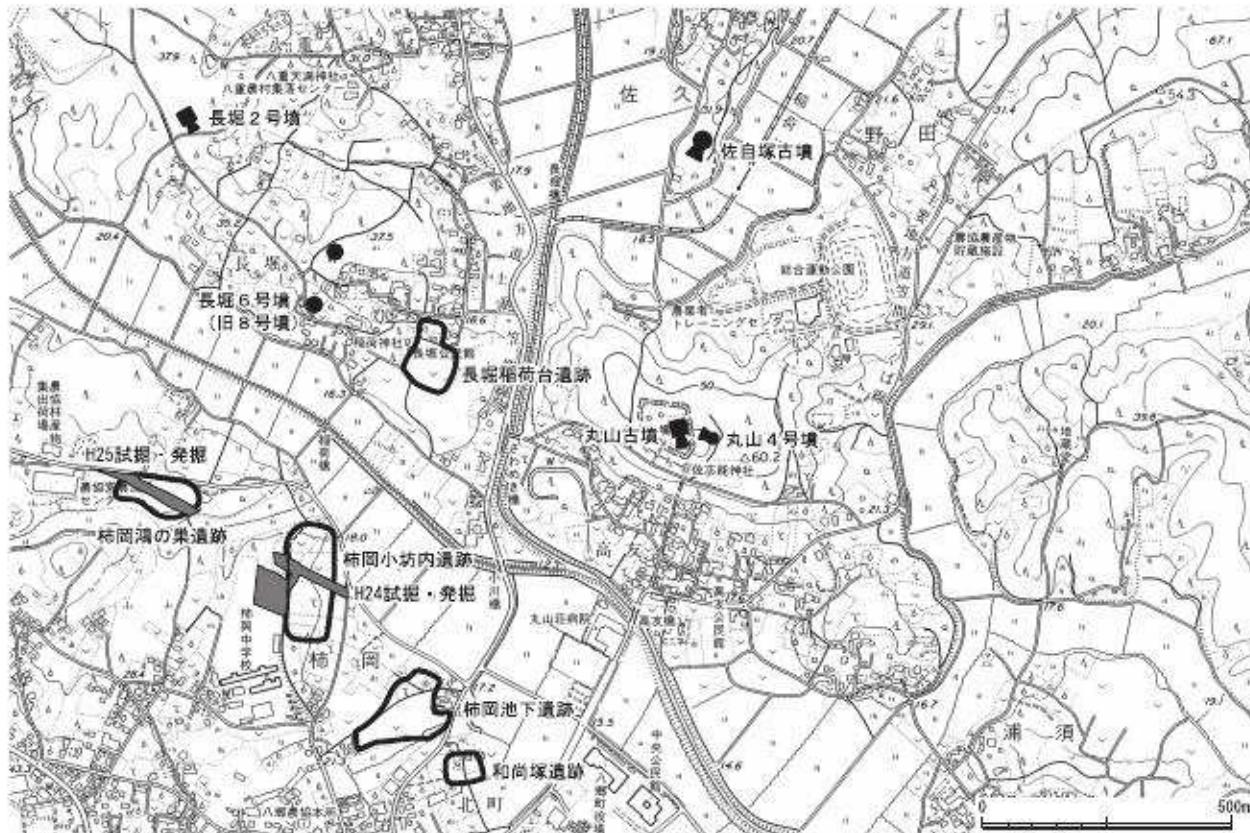


図21 柿岡鴻の巣遺跡 調査地点位置図 (S=1/15,000)

個人住宅建設 ⑤調査担当者 谷仲俊雄 ⑥調査概要 開発区域内に4ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、遺構・遺物は確認されなかった。ローム面までの深さは0.53～0.68m程度。

26 根小屋（未周知）

①所在地 石岡市根小屋字新田1155-1 ②開発面積 635m² ③調査日 平成25年8月21日 ④調査原因 個人住宅建設 ⑤調査担当者 谷仲俊雄 ⑥調査概要 開発区域内に10ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、表土中より奈良・平安時代の土器片（土師器・須恵器）が少量出土したが、遺構は確認されなかった。地山確認面までの深さは0.2～0.45m程度。なお、開発地は南にむかって傾斜している。北端においてはローム層を確認したが、南側ではローム層は確認されず、粘土層が確認された。

27 宮部遺跡（第10地点）

①所在地 石岡市若宮2丁目56-4 ②開発面積 472m² ③調査日 平成25年8月23日 ④調査原因 個人住宅建設 ⑤調査担当者 谷仲俊雄 ⑥調査概要 開発区域内に3ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した（図23）。その結果、各トレンチにおいて碎石を含む造成土を確認した。造成土の掘り下げを行ったところ、T-1・3では湧水が認められ、T-2は大きく搅乱されており、地山は確認できなかった。遺物は、表土および造成土より土師器・須恵器（奈良・平安時代）、土師質土器（中世）が出土した。⑦遺物 1は須恵器の壊。外面暗灰色、内面暗灰～暗褐灰色。白雲母多量、白色粒少量、黄褐色粒微量含む。新治産。T-2出土。2は土師質土器の鍋。外面にぶい褐～暗褐色、内面にぶい褐～明褐色。白雲母多量、黒雲母微量、白色粒・黑色粒少量含む。外面煤付着。T-3出土。

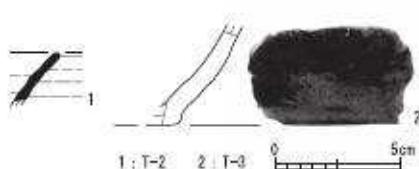


図22 宮部遺跡（第10地点）出土遺物(S=1/3)



写真16 宮部遺跡（第10地点）調査風景

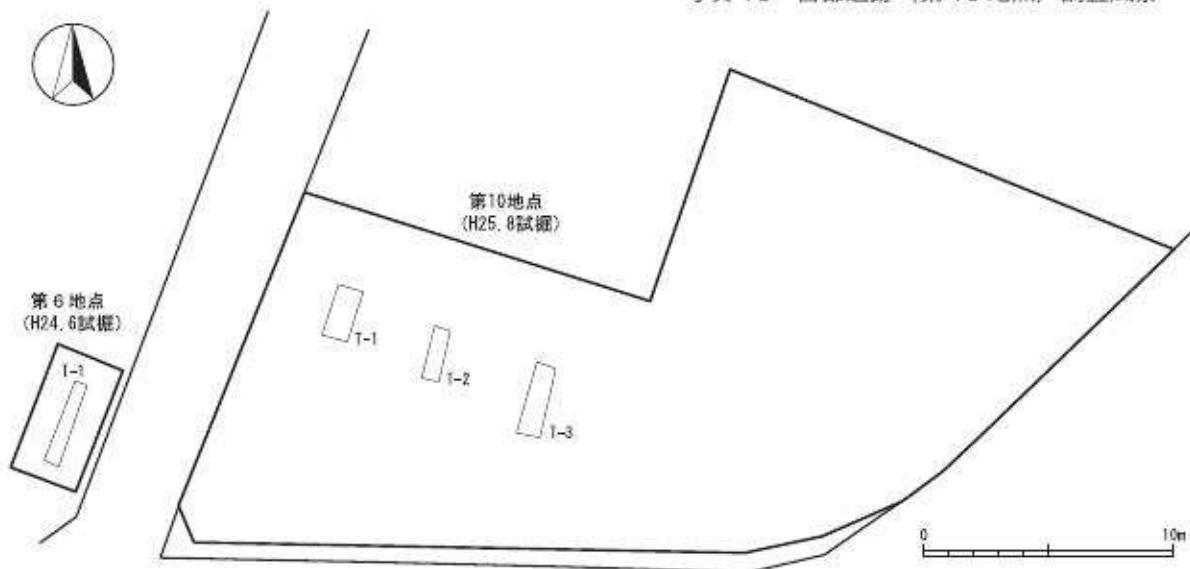


図23 宮部遺跡（第10地点）全体図 (S=1/300)

28 鹿の子遺跡（第49次）

①所在地 石岡市鹿の子1丁目9377-1の一部 ②開発面積 456m² ③調査日 平成25年8月30日 ④調査原因 共同住宅建設 ⑤調査担当者 谷仲俊雄 ⑥調査概要 開発区域内に2ヶ所の試掘トレンチを重機にて設定し、遺跡の有無を確認した（図24）。その結果、遺構・遺物は確認されなかった。ローム面までの深さは0.85～0.9m程度。

本調査地点の東側は、常磐自動車道建設に伴い試掘調査が行われたが遺跡が確認されなかった地区（鹿の子遺跡B地区）であり、黒澤彰哉は「広場的な空間地」と推定し、軍団のための「広場」と評価した（黒澤2014）。本調査地点も限られた試掘調査だが、遺構・遺物は確認されなかったことから、その想定を裏付けるものとなる。

<引用文献>黒澤彰哉 2014 「鹿の子C遺跡官衙地区の性格—茨城軍團説の提唱—」『婆良岐考古』第36号

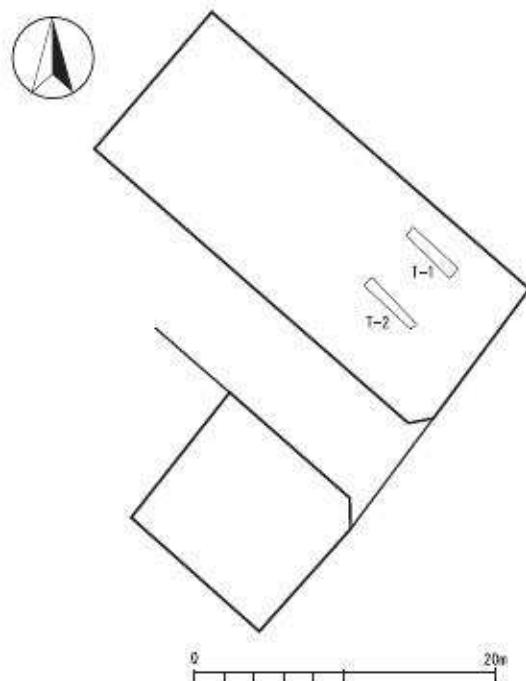


図24 鹿の子遺跡（第49次）全体図 (S=1/500)

29 柿岡池下遺跡（第1地点－6）

①所在地 石岡市柿岡字池下3023番1 ②開発面積 295m²
③調査日 平成25年9月9日 ④調査原因 個人住宅建設
⑤調査担当者 谷仲俊雄 ⑥調査概要 開発地およびその周辺は平成17年度に宅地造成に伴う試掘調査により遺跡が確認され（第1地点、小杉山2006）、道路部分については平成18年度に発掘調査を実施し、古墳時代中期の竪穴住居跡1軒などが検出されている（第1地点-1、小川・小杉山2007）。また、個人住宅建設部分についても、試掘調査・発掘調査を実施し、古墳時代後期の竪穴住居跡1軒などを検出している（図26、第1地点-2～5、小杉山・曾根2011・2012・2013）。

開発区域内に15ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した（図28）。その結果、開発区域の中央西側のT-8において土坑を1基確認した（SK01）。ローム面までの深さは、開発地の北側では0.1～0.15m、南側では0.28m程度。

SK01 T-8を拡張し、面的に確認するとともに、遺構の時期・性格把握のため、掘り下げることとした。長軸2m、短軸1.2mで、東西に長い長方形を呈する。土層の確認をしながら掘り下げたところ、下層から古墳時代の土師器（図27-1）が出土し、古墳時代の遺構と考えられる。底面は平坦で、深さは0.32m程度。

⑦遺物 1は土師器の壺の底部。外面橙褐色、内面橙褐～にぶい褐色。白色粒、半透明粒、黄褐色粒・砂粒少量含む。焼成良好。T-8・SK01下層出土。



写真17 鹿の子遺跡（第49次）全景



写真18 柿岡池下遺跡（第1地点－6）
SK01 調査風景

<引用文献>小杉山大輔 2006『石岡市内遺跡調査報告書』石岡市教育委員会

小川和博・小杉山大輔 2007『柿岡池下遺跡 発掘調査報告書』石岡市教育委員会・日考古研茨城

小杉山大輔・曾根俊雄 2011『市内遺跡調査報告書 第6集』石岡市教育委員会

小杉山大輔・曾根俊雄 2012『市内遺跡調査報告書 第7集』石岡市教育委員会

小杉山大輔・曾根俊雄 2013『市内遺跡調査報告書 第8集』石岡市教育委員会



図25 柿岡池下遺跡 調査地点位置図 (S=1/5,000)

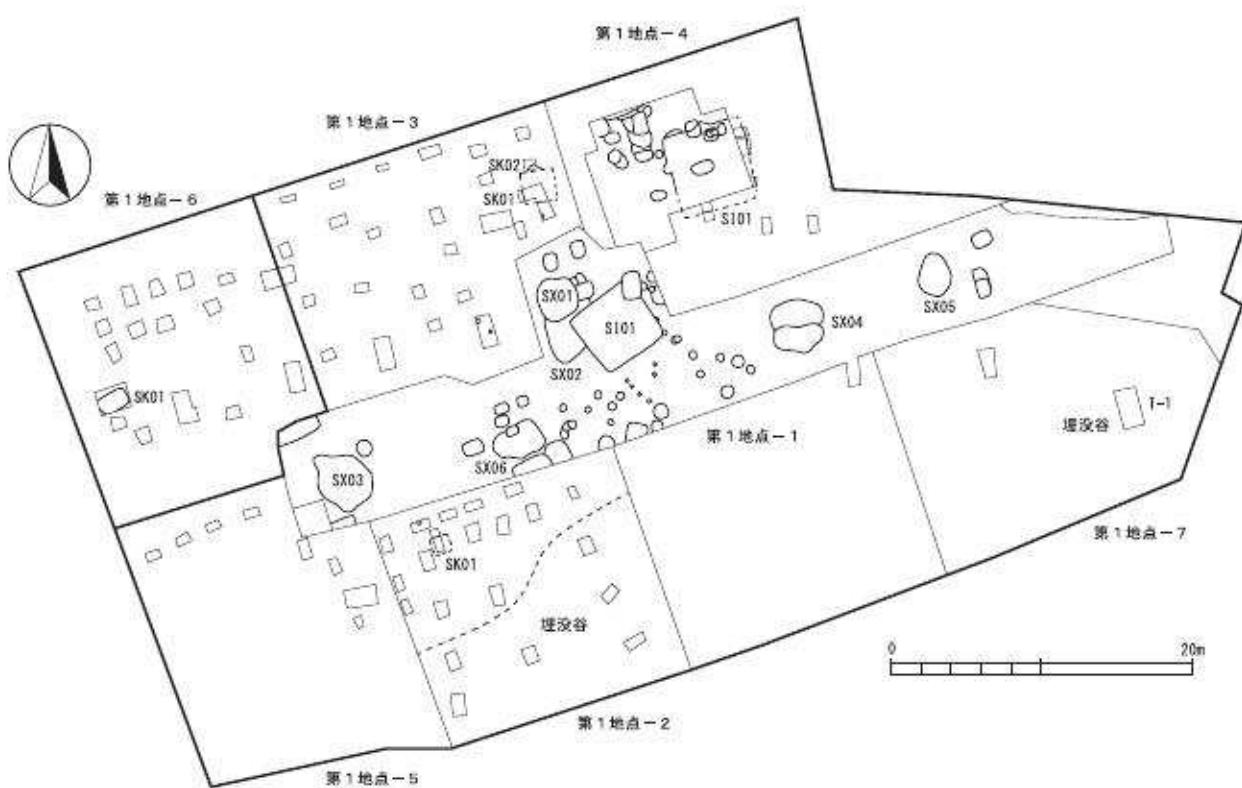


図26 柿岡池下遺跡（第1地点）全体図 (S=1/500)



写真 19 調査風景（北西から）



写真 20 T-8 SK01 (東から)

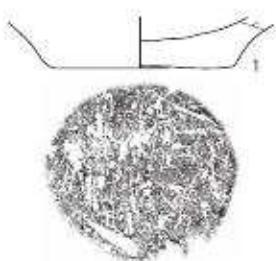


図 27 出土遺物 (S=1/3)

30 片岡（未周知）

①所在地 石岡市片岡字羽黒前 507 番 1
 ②開発面積 140m² ③調査日 平成 25 年 9 月 19 日 ④調査原因 携帯電話無線基地局建設 ⑤調査担当者 谷仲俊雄 ⑥調査概要 開発区域内に 9ヶ所の試掘トレンドを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。時期不明の土器細片が出土したが、遺構は確認されなかった。地山までの深さは 0.25m 前後。

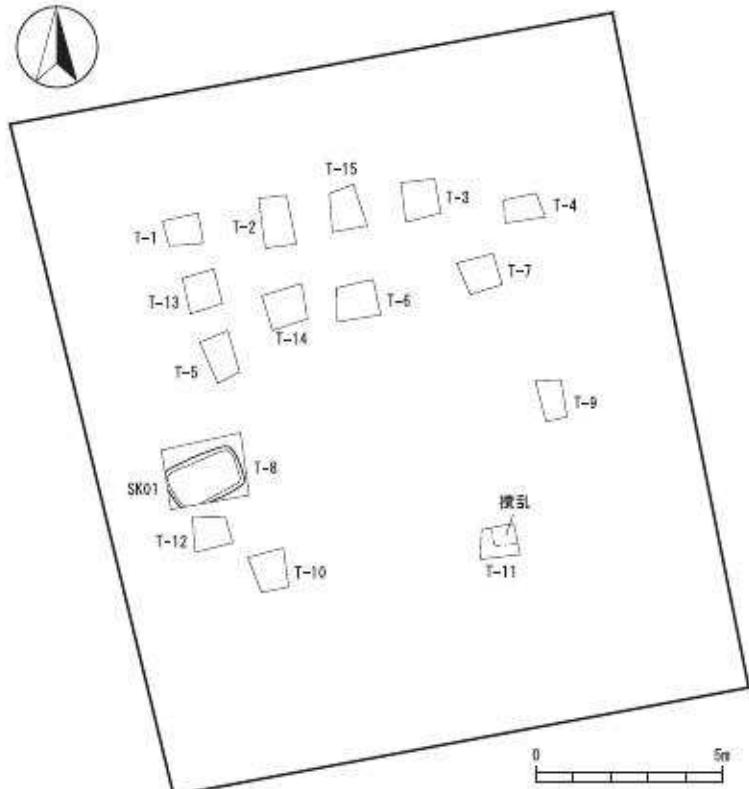


図 28 柿岡池下遺跡 (第 1 地点 -6) 全体図 (S=1/200)

31 小幡（未周知）

①所在地 石岡市小幡字稻荷山 4096 番、4097 番 ②開発面積 991 m² ③調査日 平成 25 年 9 月 27 日 ④調査原因 デイサービス建設 ⑤調査担当者 谷仲俊雄 ⑥調査概要 開発区域内に 4ヶ所の試掘トレンドを重機にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、遺構・遺物は確認されなかった。ローム面までの深さは 0.25 ~ 0.38m 程度。

32 小倉（未周知）

①所在地 石岡市小倉字西ノ内 617 番 4 ②開発面積



写真 21 小幡 調査風景

992m² ③調査日 平成 25 年 9 月 30 日 ④調査原因
個人住宅建設 ⑤調査担当者 谷仲俊雄 ⑥調査概要
開発区域内に 2ヶ所の試掘トレンチを重機にて
設定し、遺跡の有無を確認した。各トレンチにおいて 1m 程度の掘り下げを行ったが、盛土と考えられる土層が続いており、地山は確認できなかった。したがって、当地は過去の造成によって大規模な盛土
が行われているものと判断した。遺物は出土していない。



写真 22 東ノ辻遺跡 調査風景

33 東ノ辻遺跡

①所在地 石岡市石岡字水久保 2310-3 ②開発面積
353m² ③調査日 平成 25 年 10 月 3 日 ④調査原因
個人住宅建設 ⑤調査担当者 谷仲俊雄 ⑥調査概要
開発区域内に 6ヶ所の試掘トレンチを人力にて
設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、遺構・
遺物は確認されなかった。ローム面までの深さは 0.5
～ 0.6m。



写真 23 国分遺跡 調査風景

34 国分遺跡

①所在地 石岡市府中 4 丁目 8395 番 2, 8395 番 3
②開発面積 538m² ③調査日 平成 25 年 10 月 10
日 ④調査原因 個人住宅建設 ⑤調査担当者 谷仲俊雄 ⑥調査概要 開発区域内に 13ヶ所の試掘トレンチ
を人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、表土中より土器小片が出土したが、遺構は確認されなかっ
た。ローム面までの深さは北側では 0.2 ～ 0.3m、南側では 0.5 ～ 0.6m 程度。

35 大塚遺跡

①所在地 石岡市石岡字大塚 14033-1 ②開発面積 529m² ③調査日 平成 25 年 10 月 21 日 ④調査原因 共
同住宅建設 ⑤調査担当者 谷仲俊雄 ⑥調査概要 開発区域内に 11ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、
遺跡の有無を確認した。その結果、遺構・遺物は確認されなかった。ローム面までの深さは 0.55 ～ 0.8m 程度。

36 部原五本松遺跡（新発見）

①所在地 石岡市部原 1-8 ほか ②開発面積 1,455m² ③調査日 平成 25 年 11 月 11 日～21 日 ④調査原因
農村交流基盤整備事業 ⑤調査担当者 谷仲俊雄 ⑥調査概要 開発区域内に 32ヶ所の試掘トレンチを人力にて
設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、溝 1 条などを確認した。また、槍先形尖頭器や縄文土器が出土し
た。この開発に伴い、平成 26 年度に発掘調査を実施し、「部原五本松遺跡—H26 農村交流基盤整備事業に伴う発
掘調査—」(2015 年、石岡市教育委員会・有限会社勾玉工房 Mogi) を刊行している。

37 尼寺ヶ原遺跡

①所在地 石岡市若松 3 丁目 8712-1 の一部 ②開発面積 349m² ③調査日 平成 25 年 11 月 13 日 ④調査原

因 個人住宅建設 ⑤調査担当者 谷仲俊雄 ⑥調査概要 開発区域内に9ヶ所の試掘トレンチを設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、奈良・平安時代の遺構を確認した。この開発に伴い平成25年度に発掘調査を実施し、奈良・平安時代の掘立柱建物1棟などを検出した。詳細は発掘調査報告書に譲る。

38 舟塚山古墳群

①所在地 石岡市高浜字道祖神22番 ②開発面積 450m² ③調査日 平成25年11月19日 ④調査原因 長屋住宅建設 ⑤調査担当者 谷仲俊雄 ⑥調査概要 開発区域内に14ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した（図30）。その結果、竪穴住居跡1軒（SI01）を確認した。古墳時代中期後半の塊や高坏、甕がまとまって出土している（図31-1～5）。遺構確認面までの深さは北側で0.35～0.45m程度、南側で0.95～1.1m以上。⑦遺物 1～3は土師器の塊。1は口径104mm（復元）、器高64mm、底径29mm。外面橙褐～赤褐色、内面暗褐色。白雲母・白色粒、黄褐色粒少量含む。口縁部～体部50%残存、底部完存。2は口径124mm、器高69mm、底径33mm。橙褐～赤褐色。白色粒、白雲母・半透明粒少量、黄褐色粒微量含む。焼成やや良。ほぼ完存。3は口径128mm、器高73mm。外面橙褐～暗褐色、内面赤褐～暗褐色。白雲母、白色粒・半透明粒少量、黄褐色粒微量含む。口縁部一部欠損のほか完存。4は土師器の高坏。口径152mm。褐～明褐色。白雲母、白色粒・黄褐色粒少量、半透明粒微量含む。焼成良好。図示部65%残存。5は土師器の甕。口径164mm、器高238mm、底径46mm（復元）。暗褐～暗赤褐色。白雲母、黑雲母・白色粒少量、半透明粒微量含む。焼成良好。内面コケ付着。底部～体部一部欠損。



写真24 尼寺ヶ原遺跡 全景(東から)

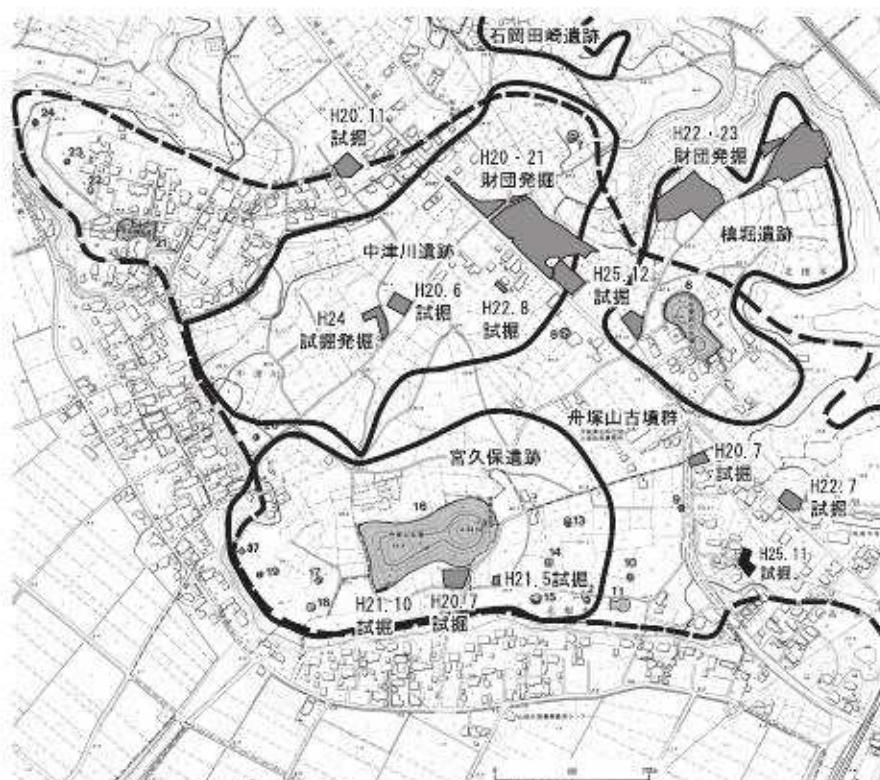


図29 舟塚山古墳群 調査地点位置図(S=1/10,000)

39 東光台(未周知)

①所在地 石岡市東光台4丁目2857番1 ②開発面積 12,132m² ③調査日 平成25年11月29日 ④調査原因 店舗建設 ⑤調査担当者 谷仲俊雄 ⑥調査概要 開発地は埋滅した逆井遺跡の隣接地にあたるため、試掘調査を行った。開発区域内に11ヶ所の試掘トレンチを重機にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、遺構・

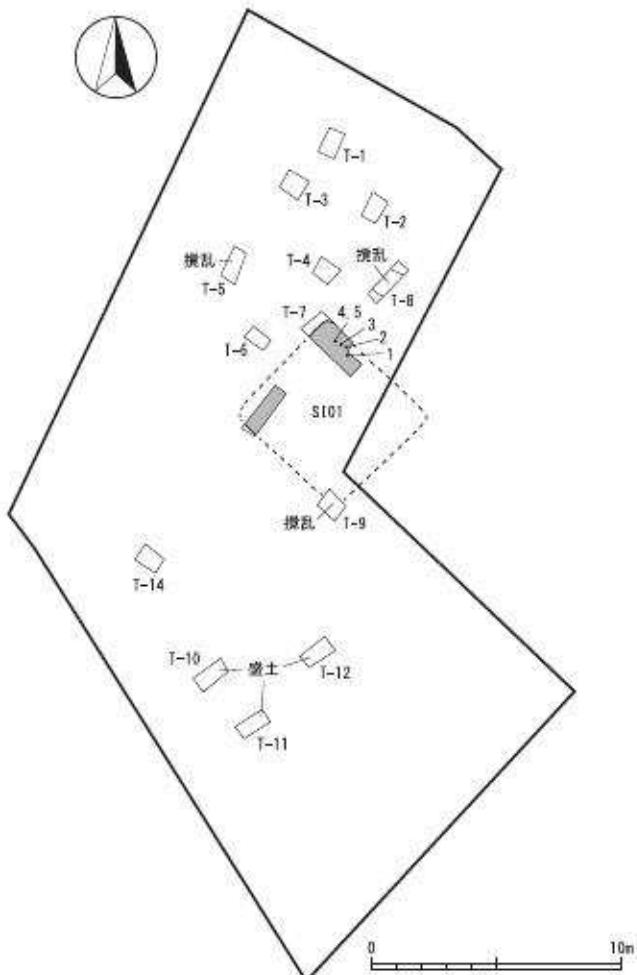


図 30 舟塚山古墳群 全体図 (S=1/300)



写真 25 T-7 遺物出土状況（北東から）



写真 26 T-7 遺物出土状況（西から）

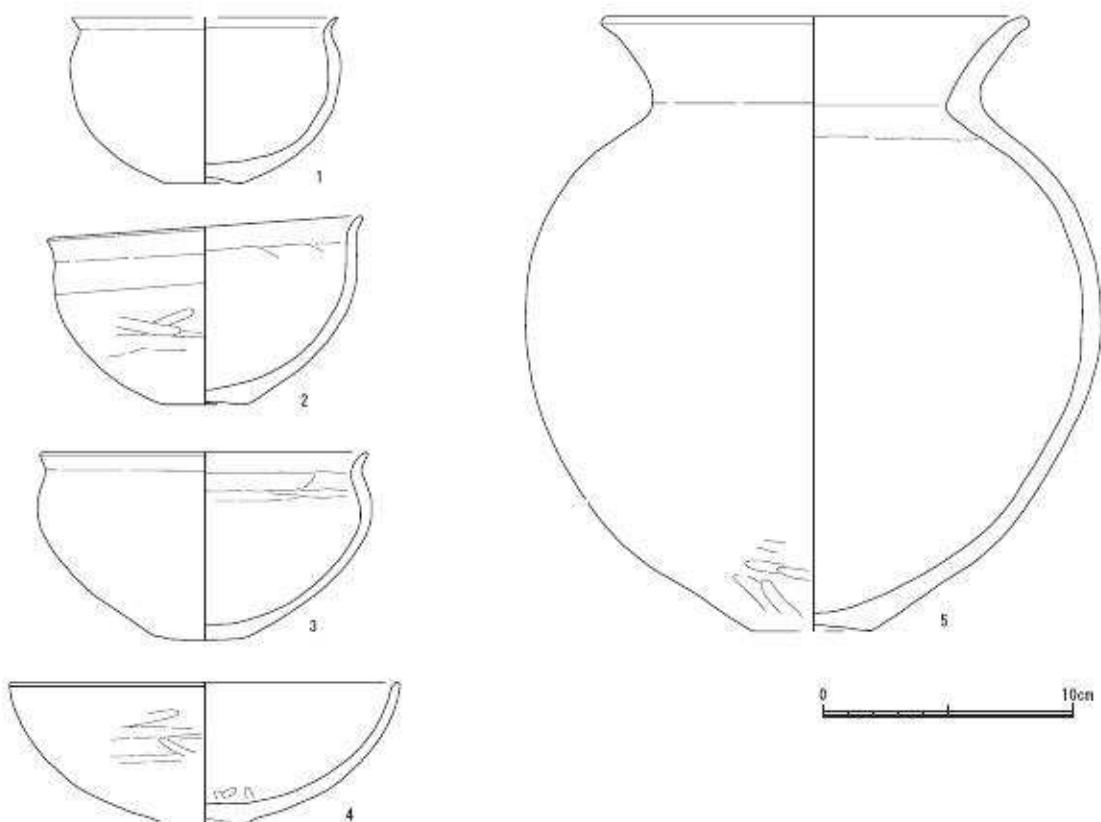


図 31 舟塚山古墳群 出土遺物 (S=1/3)

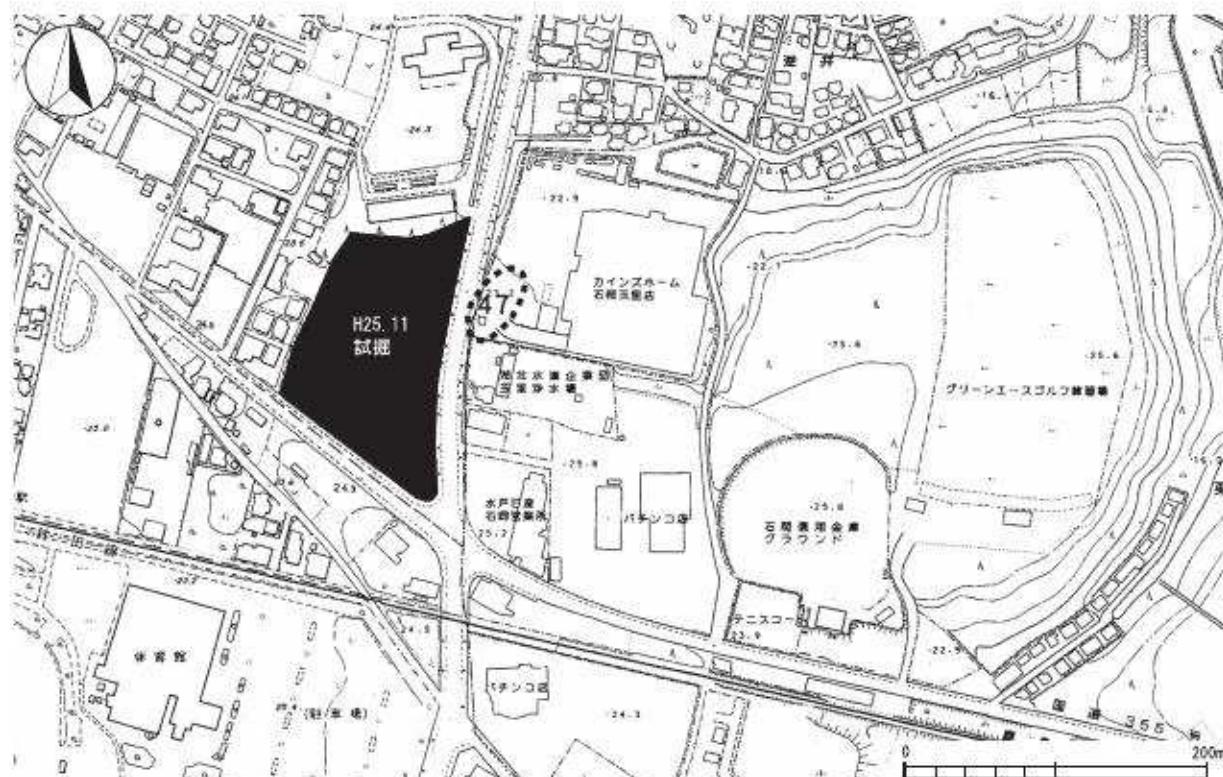


図32 東光台 調査地点位置図 (S=1/5,000)

遺物は確認されなかった。ローム面までの深さは1～1.6m程度。

40 幸町遺跡（第1地点）

①所在地 石岡市国府7丁目490-5ほか ②開発面積 455m² ③調査日 平成25年12月5日 ④調査原因
個人住宅建設 ⑤調査担当者 谷仲俊雄 ⑥調査概要 開発区域内に16ヶ所の試掘トレンチを人力で設定し、
遺跡の有無を確認した。その結果、竪穴住居跡、溝、土坑を確認したほか、古墳時代および奈良・平安時代の土
器が出土した。この開発に伴い、平成25年度に発掘調査を実施しており、詳細は発掘調査報告書に譲る。

41 朝日（未周知）

①所在地 石岡市朝日字朝日413-1 ②開発面積 80m² ③調査日 平成25年12月10日 ④調査原因 無線基
地局建設 ⑤調査担当者 谷仲俊雄 ⑥調査概要 開発区域内に4ヶ所の試掘トレンチを人力で設定し、遺跡
の有無を確認した。その結果、表土下0.5～0.65m程度で地山を確認したが、遺構・遺物は確認されなかった。

42 宮平遺跡

①所在地 石岡市染谷1646番ほか ②開発面積 40m² ③調査日 平成25年12月11日～18日 ④調査原因
公衆トイレ建設 ⑤調査担当者 谷仲俊雄 ⑥調査概要 開発区域内に1ヶ所の試掘トレンチを重機にて設定
し、遺跡の有無を確認した。その結果、奈良・平安時代の竪穴住居跡や縄文時代の土坑を確認した。この開発に
伴い、平成25年度に発掘調査を実施しており、詳細は発掘調査報告書に譲る。

43 鹿の子遺跡（第50次）

①所在地 石岡市鹿の子1丁目9578-3ほか ②開発面積 331m² ③調査日 平成25年12月17日 ④調査原
因 個人住宅建設 ⑤調査担当者 谷仲俊雄 ⑥調査概要 開発区域内に4ヶ所の試掘トレンチを設定し、遺跡

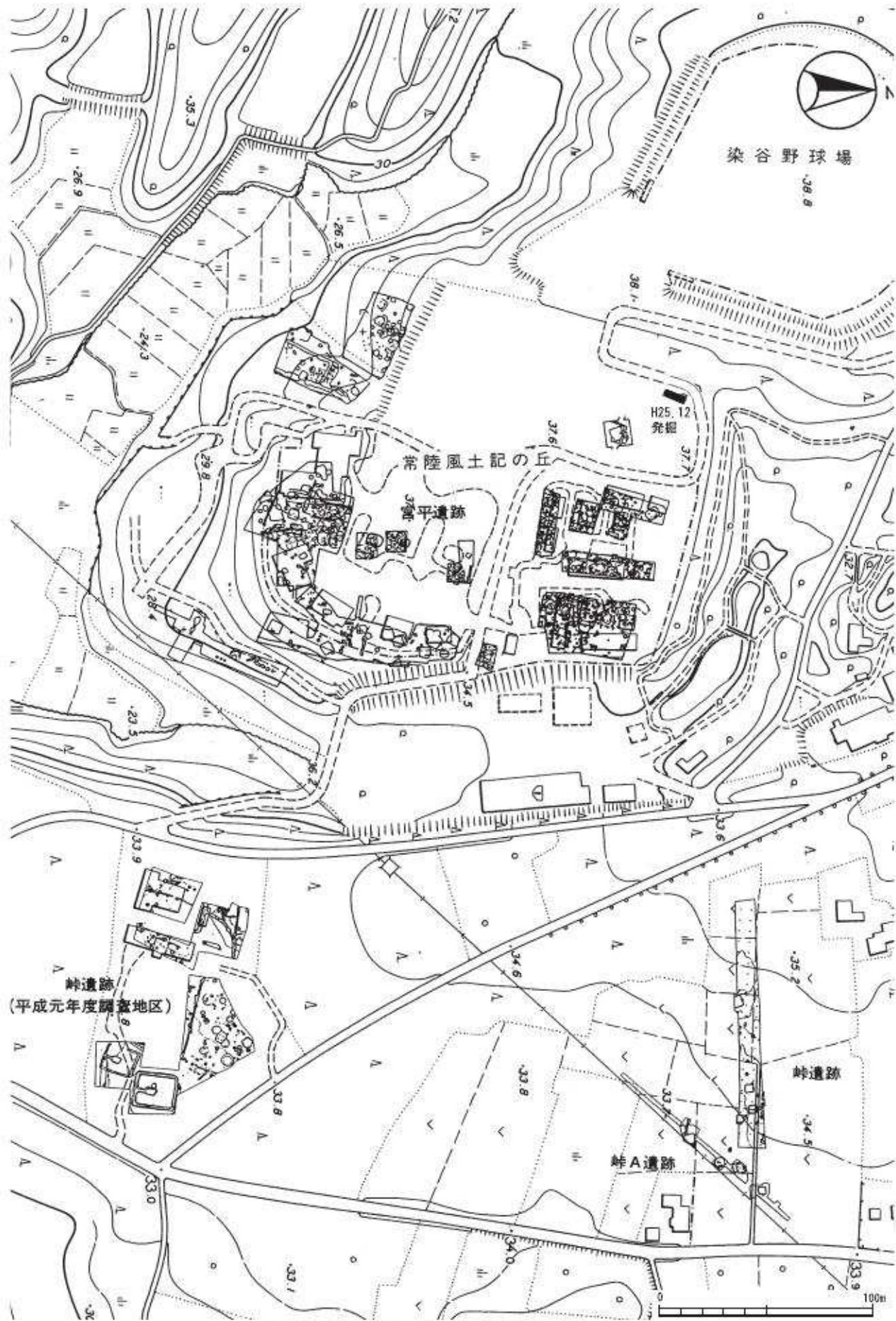


図33 宮平遺跡 調査地点位置図 (S=1/2,500)

の有無を確認した。その結果、各トレンチにおいて碎石および山砂を含む造成土を確認した。造成土の掘り下げを行ったところ、湧水が認められ、地山は確認できなかった。遺物は出土していない。

44 府中城跡（第7地点）

①所在地 石岡市総社1丁目421-29 ②開発面積 447m² ③調査日 平成26年1月9日 ④調査原因 個人住宅建設 ⑤調査担当者 谷仲俊雄 ⑥調査概要 開発区域内に1ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した（図34）。その結果、土坑1基（SK01）およびピット1基を確認した。遺構確認面までの深さは0.5m程度。表土中からは奈良・平安時代の土器・瓦、中世の土器が出土している。また、SK01については、遺構の時期・性格把握のため、掘り下げを行った。深さは0.3m程度で、奈良・平安時代の土器や中世の土器が出土した。

45 杉ノ井遺跡（第7地点）

①所在地 石岡市杉の井12618番3、4 ②開発

図34 府中城跡（第7地点）全体図（S=1/300）

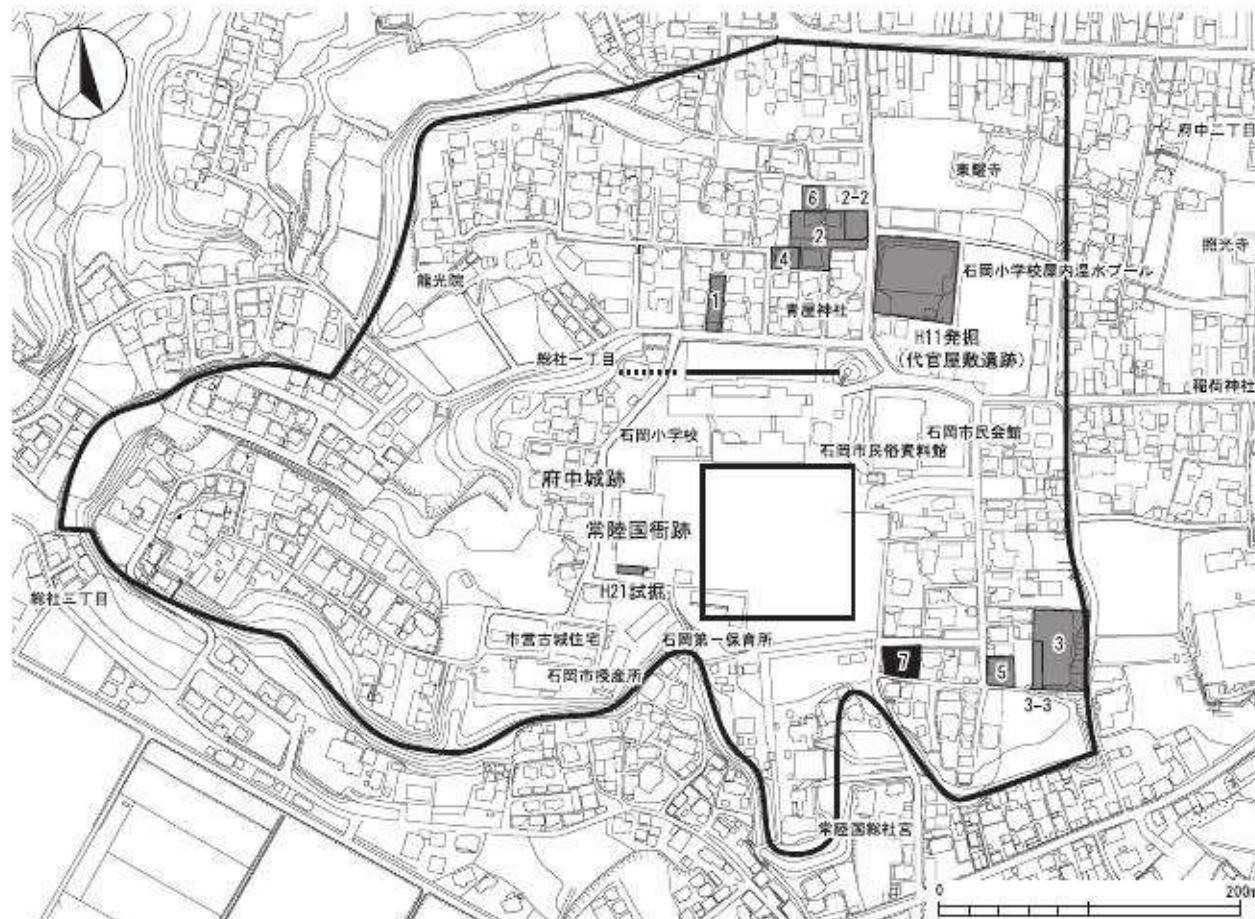
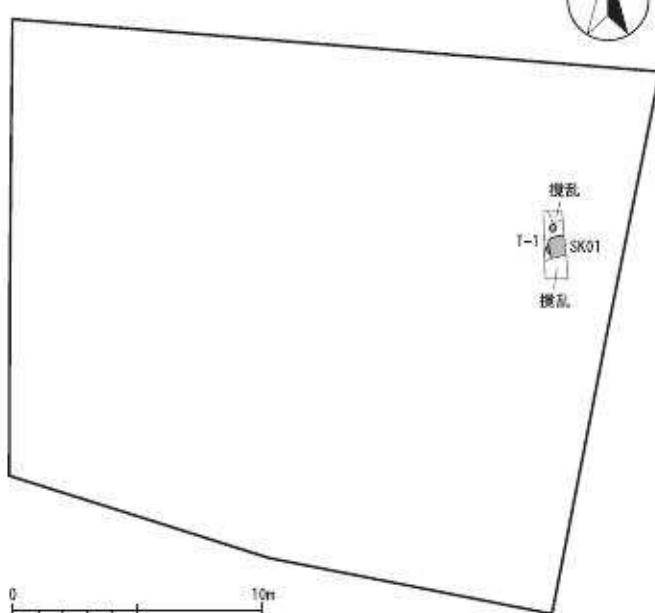


図35 府中城跡 調査地点位置図 (S=1/5,000)

面積 312m² ③調査日 平成 26 年 1 月 16 日
 ④調査原因 個人住宅建設 ⑤調査担当者 谷仲俊雄 ⑥調査概要 開発区域内に 9 ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した（図 44）。その結果、溝 1 条（SD01）を確認した（図 36）。遺構確認面までの深さは 0.35 ~ 0.4m 程度。表土中からは奈良・平安時代の土器・瓦の小片が出土している。

SD01 開発区域西側の T-1・2、T-4、T-9 において確認した。遺構の時期・性格把握のため、各トレンチの掘り下げを行った。北北東一南南西方向に直線的に走行する溝である。今回の調査地点では西端を確認できなかったが、幅 2.4m 程度か。深さ 0.55 ~ 0.6m、底面幅 0.6 ~ 0.9m。覆土は 7 層に分層できるが、中層にロームブロックを多量に含み硬化した土層（3 層）が存在する。

46 木間塚遺跡（第 16 地点）

①所在地 石岡市杉並 4 丁目 12979 番 6 ②開発面積 1.149m² ③調査日 平成 26 年 1 月 17 日 ④調査原因 太陽光発電施設設置 ⑤調査担当者 谷仲俊雄 ⑥調査概要 開発区域内に 13 ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、遺構・遺物は確認されなかった。ローム面までの深さは 0.45 ~ 0.7m 程度。

47 木間塚遺跡（第 17 地点）

①所在地 石岡市杉並 4 丁目 12988 番 30 ②開発面積 307m² ③調査日 平成 26 年 1 月 23 日 ④調査原因 個人住宅建設 ⑤調査担当者 谷仲俊雄 ⑥調査概要 開発区域内に 10 ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した（図 37）。その結果、溝 1 条（SD01）を確認した（図 38）。確認面までの深さは 0.35 ~ 0.45m 程度。

SD01 開発区域西端の T-8・10 において確認

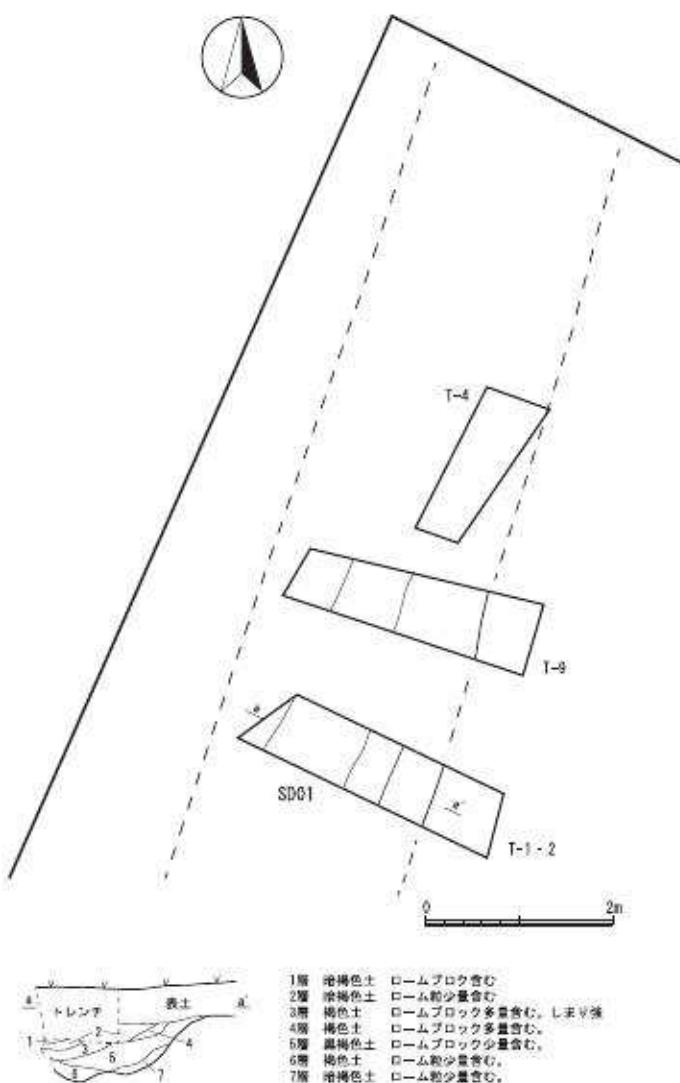


図 36 杉ノ井遺跡（第 7 地点）SD01 (S=1/80)



写真 27 SD01 土層（北東から）

した。T-8 ではトレンチを拡張し面的に確認するとともに、遺構の時期・性格把握のため、掘り下げを行った。北東一南西方向に直線的に走行する溝である。幅 1.15 ~ 1.35m、深さ 0.6m、底面幅 0.25 ~ 0.56m。覆土は 2 層に分層できる。1 層は黒褐色土層で、2 層はロームブロックを多量に含む黄褐色土層であり、掘り返しの可能性

が考えられる。遺物の出土はなかった。

48 高根遺跡

①所在地 石岡市染谷字高根 2271 ②調査面積 793m² ③調査日 平成 26 年 2 月 3 日 ④調査原因 太陽光発電施設設置 ⑤調査担当者 谷仲俊雄 ⑥調査概要 開発区域内に 17 ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。風倒木痕を確認したが、遺構は確認されなかった。表土中から縄文土器や土師器、須恵器の小片が出土した。

49 根古屋遺跡（第 5 次）

①所在地 石岡市東大橋字蓬萊 1913 番ほか ②調査面積 3,300m² ③調査日 平成 26 年 2 月 6 日～17 日 ④

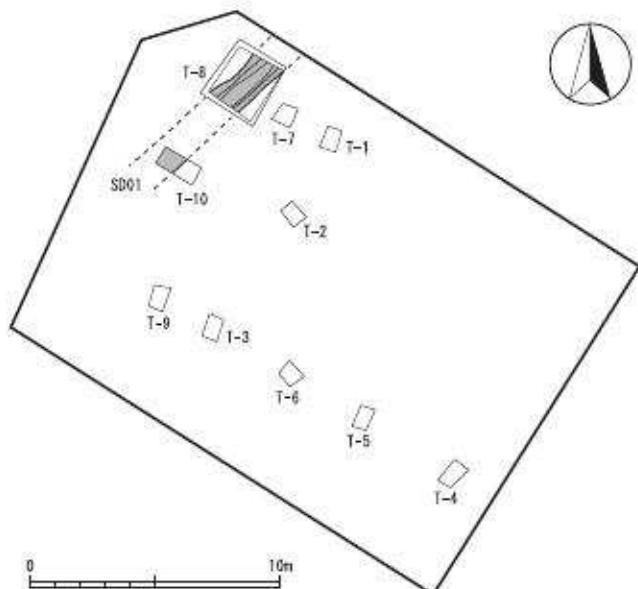


図 37 木間塚遺跡（第 17 地点）全体図 (S=1/300)



写真 28 SD01 (北東から)

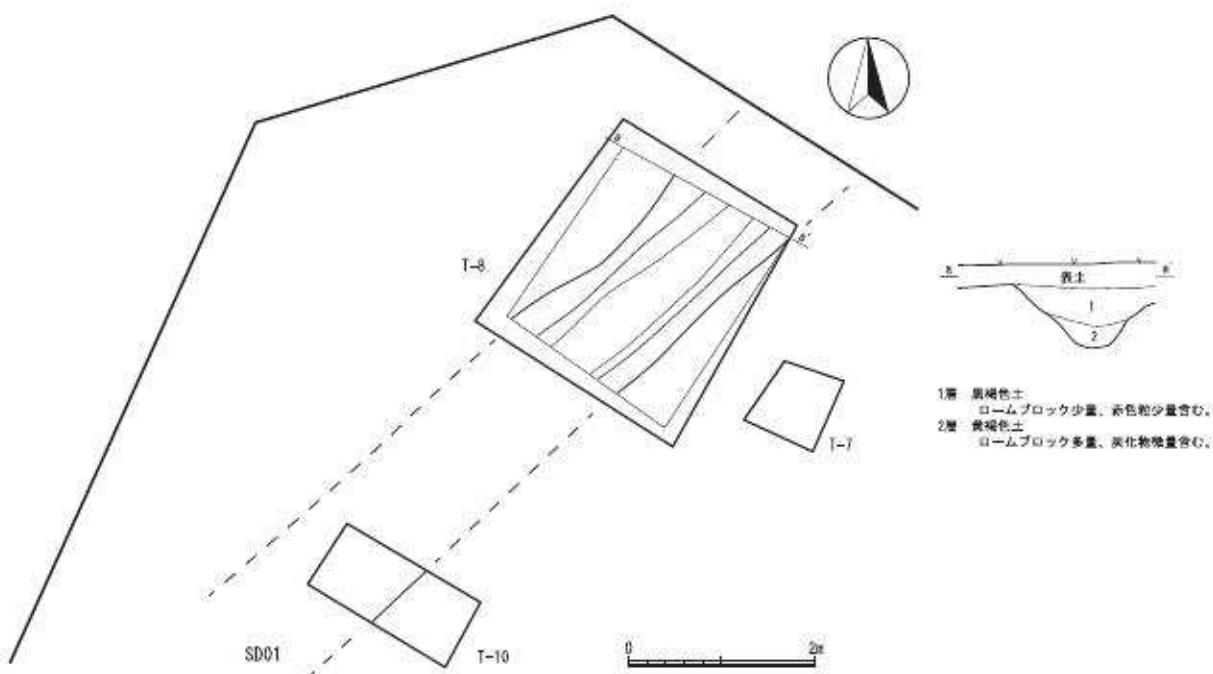


図 38 SD01 (S=1/80)

調査原因 市道改良 ⑤調査担当者 谷仲俊雄 ⑥調査概要 開発区域内に 24ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、土坑、溝を確認した。この開発に伴い、平成 25 年度に発掘調査を実施しており、詳細は発掘調査報告書に譲る。

50 須釜堀内遺跡（第 2 地点）

①所在地 石岡市須釜字堀内 1340-18 ②調査面積 321m² ③調査日 平成 26 年 2 月 7 日～10 日 ④調査原因 進入路建設 ⑤調査担当者 谷仲俊雄 ⑥調査概要 平成 18 年に宅地造成に伴う試掘調査により遺跡が確認され、道路部分については本格的な発掘調査が実施された地点（第 1 地点、小川 2008）の東側隣接地にあたる。開発区域内に 3ヶ所の試掘トレンチを重機にて設定し、遺跡の有無を確認した（図 41）。T-3 南西端において、第 1 地点の SI06 の北東部分と考えられる遺構を確認した（図 40）。第 4 地点（平成



図 39 須釜堀内遺跡 調査地点位置図 (S=1/5,000)

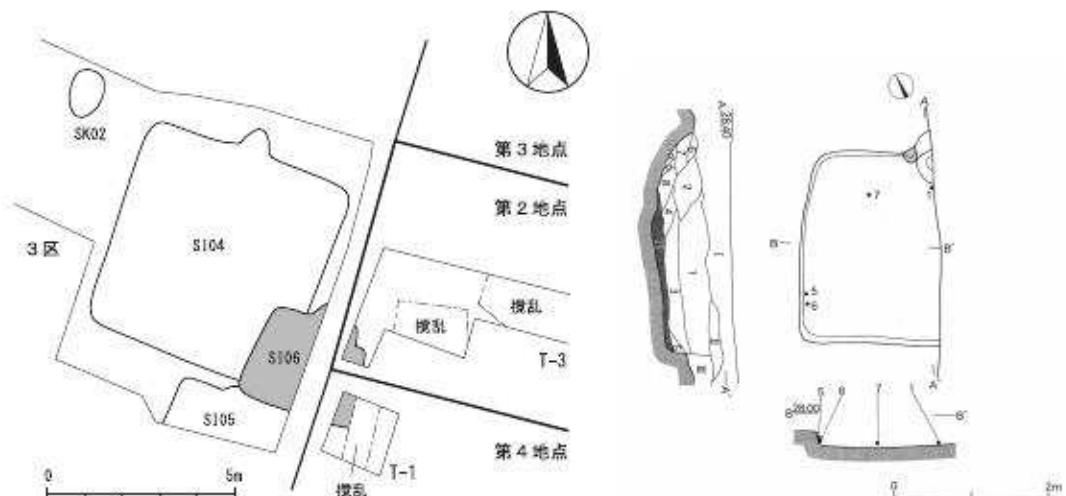


図 40 須釜堀内遺跡 SI06 (S=1/200・1/100)



写真 29 T-3 SI06 確認状況 (北から)



写真 30 T-3 SI06 完掘 (北から)

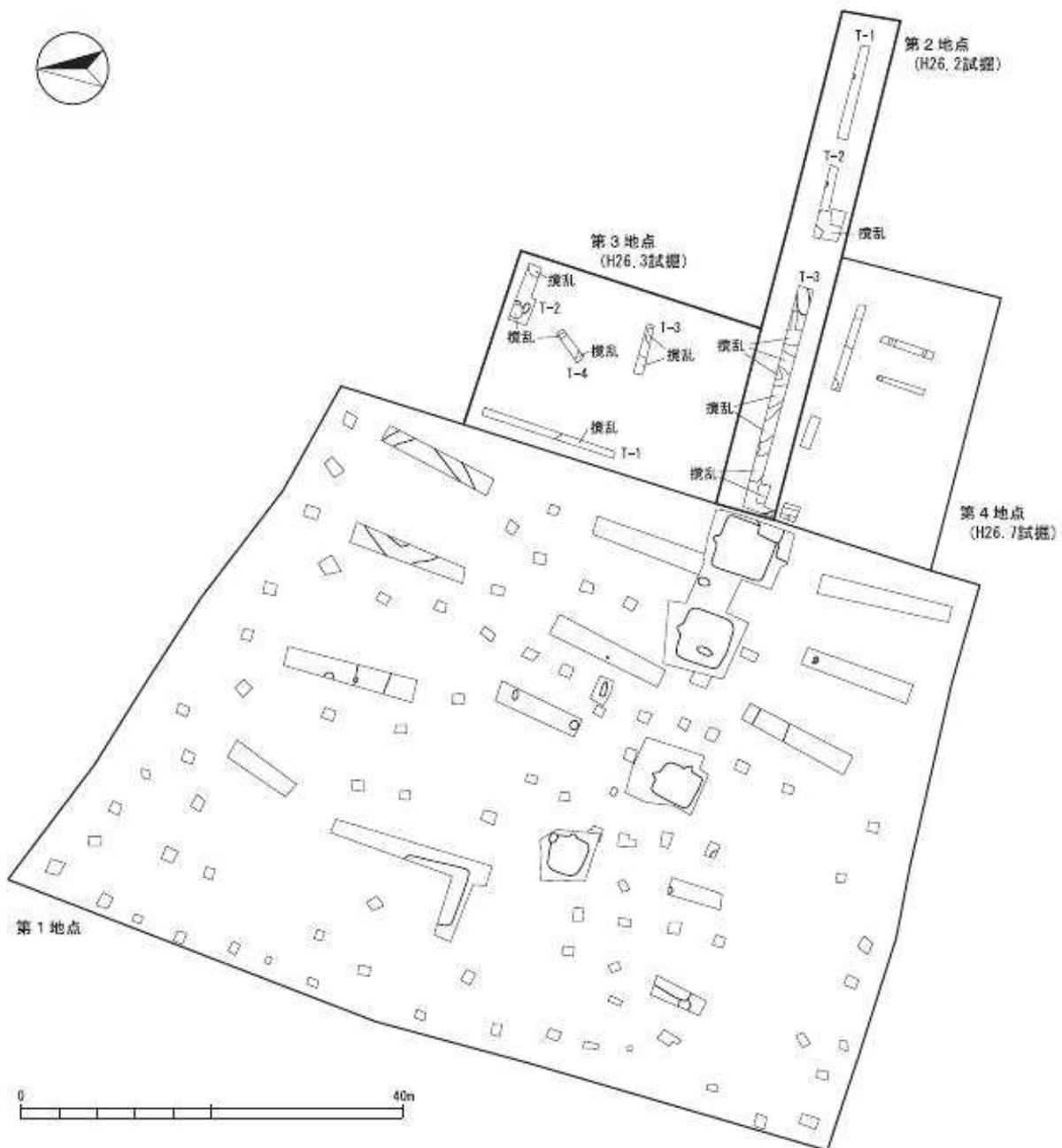


図 41 須釜堀内遺跡（第1～4地点）全体図（S=1/700）

26年7月試掘）でも南東部分を確認しており、南北長2.5m、東西長2.8mとなる。第1地点では9世紀中葉の土器が出土している。今回の地点についても掘り下げたところ、平安時代の土器が出土し、焼土や床面を確認した。出土遺物は第4地点と合わせて報告する。

<引用文献>小川和博編 2008『須釜堀内遺跡発掘調査報告書』石岡市教育委員会・有限会社日考研茨城

51 八軒台掩蔽壕

- ①所在地 石岡市東大橋字八軒向3144-2ほか ②調査面積 12,276m² ③調査日 平成26年2月18日～19日
- ④調査原因 店舗建設 ⑤調査担当者 谷仲俊雄 ⑥調査概要 開発区域には八軒台掩蔽壕の周掘部などの付帯施設が存在する可能性が考えられたため、試掘調査を行った。3ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、掩蔽壕の周掘部を確認した。周掘部の覆土の厚さは0.2～0.3m程度。この開発に伴い、平成26年度に発掘調査を実施しており、「八軒台掩蔽壕」(2014年、石岡市教育委員会・株式会社東京航業研究所)

を刊行している。

52 高根遺跡

①所在地 石岡市染谷字苗代 2430 ②調査面積 1,548m²
③調査日 平成 26 年 2 月 24 日 ④調査原因 太陽光発電施設設置
⑤調査担当者 谷仲俊雄 ⑥調査概要 開発区域内に 4ヶ所の試掘トレンチを重機にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、土器小片が出土したが、遺構は確認されなかった。ローム面までの深さは 0.45 ~ 0.6m 程度。



写真 31 八軒台掩蔽壕 (南東から)

53 弥陀ノ台遺跡

①所在地 石岡市小井戸字本堀 484-2,297 ②調査面積 2,077m²
③調査日 平成 26 年 2 月 25 日 ~ 26 日 ④調査原因 住宅建設
⑤調査担当者 谷仲俊雄 ⑥調査概要 開発地は平成 25 年 11 月 ~ 平成 26 年 5 月に発掘調査が実施され、古墳時代、奈良・平安時代の堅穴住居跡や中世の堀跡が確認された地点（小川・大渕編 2014）の東側隣接地にあたる。開発区域内に 3ヶ所の試掘トレンチを重機にて設定し、遺跡の有無を確認した（図 43）。その結果、



写真 32 弥陀ノ台遺跡 T-2 (西から)

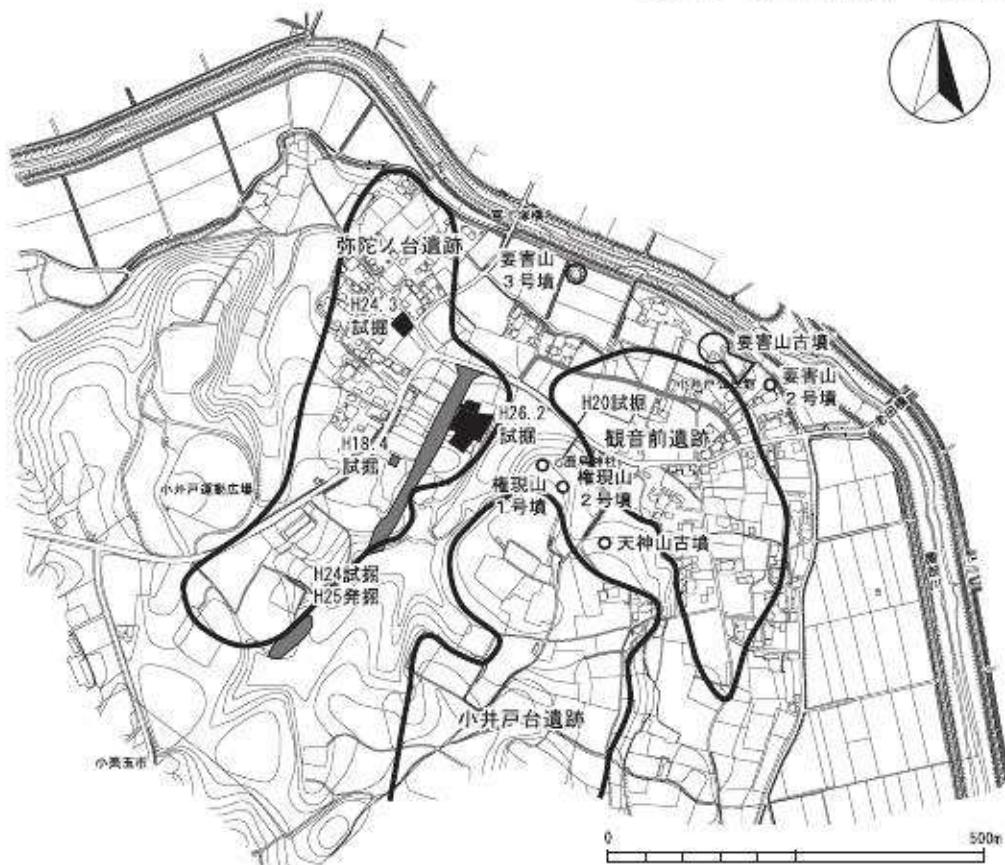


図 42 弥陀ノ台遺跡 調査地点位置図 (S=1/10,000)

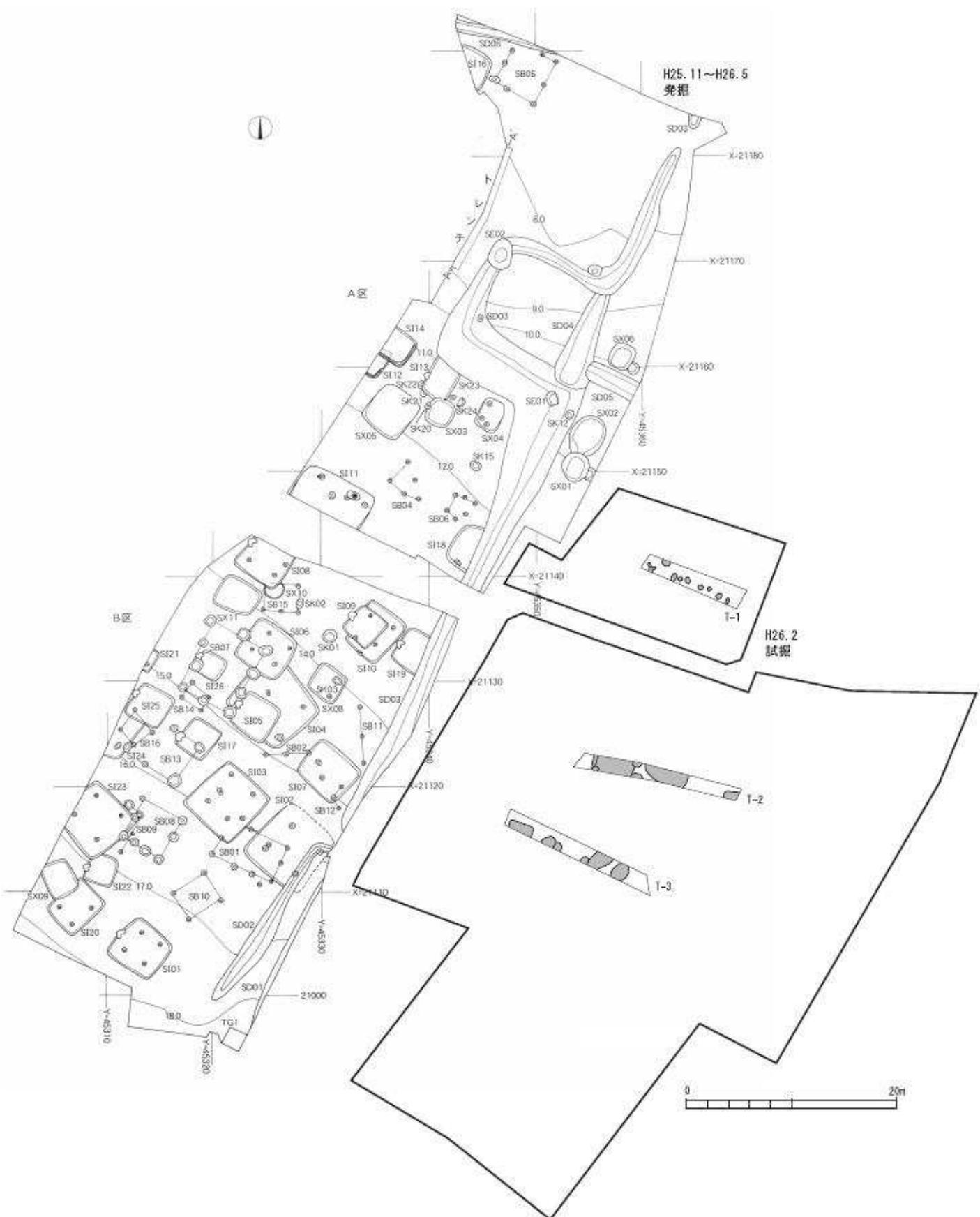


図43 弥陀ノ台遺跡 全体図 (S=1/500)

古墳時代や奈良・平安時代、中世の土器が出土し、竪穴住居跡や土坑、ピットを確認した。遺構確認面までの深さは0.5～0.7m程度。出土遺物については別途報告する。

＜引用文献＞小川和博・大淵淳志編 2014「弥陀ノ台遺跡—小美玉市道栗又四ヶ線道路改良工事に伴う発掘調査—」石岡市教育委員会・有限会社日考研茨城

54 須釜堀内遺跡（第3地点）

①所在地 石岡市須釜 1340-15 ②調査面積 495m² ③調査日 平成26年3月7日 ④調査原因 個人住宅建設 ⑤調査担当者 谷仲俊雄 ⑥調査概要 第1地点（平成18年度試掘、平成19年度発掘）の東側、第2地点（平成26年2月試掘）の北側隣接地にあたる。調査開発区域内に4ヶ所の試掘トレンチを重機にて設定し、遺跡の有無を確認した（図41）。その結果、発掘調査の対象となる遺構は確認されなかった。ローム面までの深さは0.4～0.6m程度。

55 杉ノ井遺跡（第8地点）

①所在地 石岡市杉の井 12618-5 ②調査面積 486m² ③調査日 平成26年3月12日～24日 ④調査原因 個人住宅建設 ⑤調査担当者 谷仲俊雄 ⑥調査概要 開発区域内に3ヶ所の試掘トレンチを重機にて設定し、遺跡の有無を確認した（図44）。その結果、T-2において溝1条（SD01）を確認した（図45）。遺構確認面までの深さは0.2～0.3m程度。

SD01 遺構の時期・性格判断のため、トレンチを拡張し面的に確認するとともに、掘り下げを行った。北北東一南南西方向に直線的に走行する溝である。幅1.5～1.7m、深さ0.35～0.42m、底面幅1.16～1.3m。覆土は7層に分層できるが、溝の中央部が0.65～0.8mの幅で0.14m深く掘られており、深く掘られた部分にはロームブロックを含む硬化した層が存在する（6・7層）。また、中層（2層）にも硬化した土層が存在しており、掘削当初や溝が埋没していく過程で道として利用された可能性が考えられる。走行方向や、硬化した土層が存在する共通点から、第7地点のSD01（図36）と同一の溝と考えられる（図44）。覆土中からは、奈良・平安時代の土師器・須恵器・瓦片が出土している。

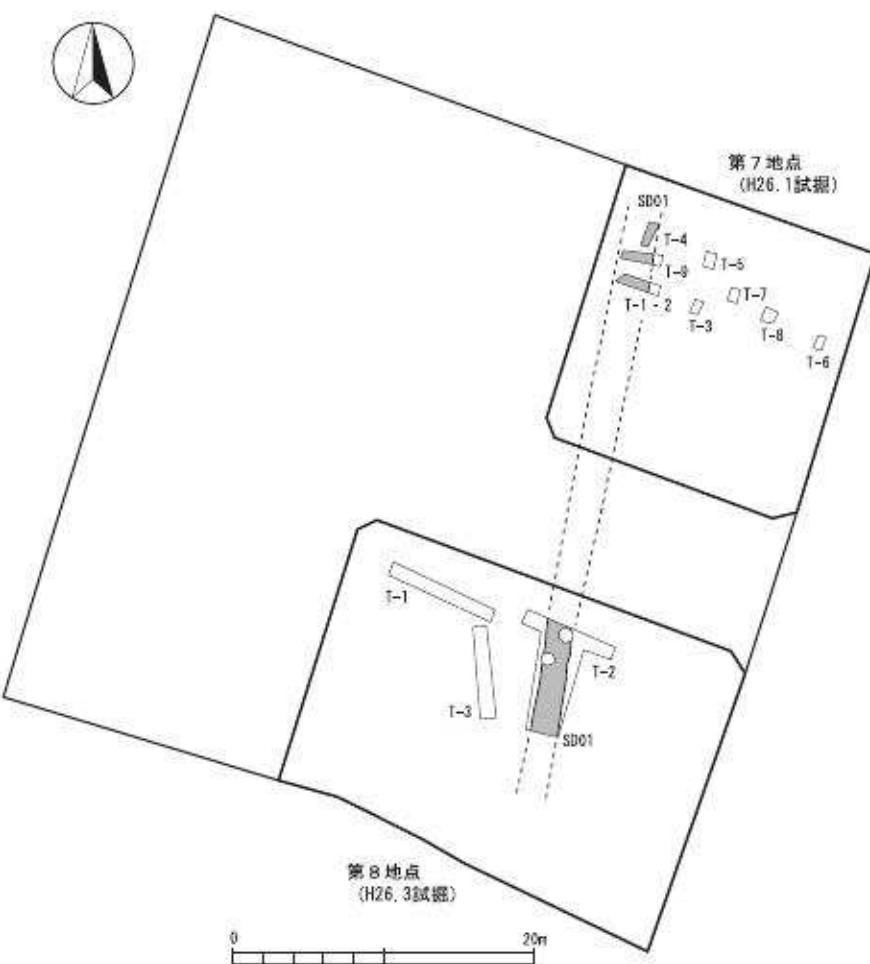


図44 杉ノ井遺跡（第7・8地点）全体図（S=1/500）

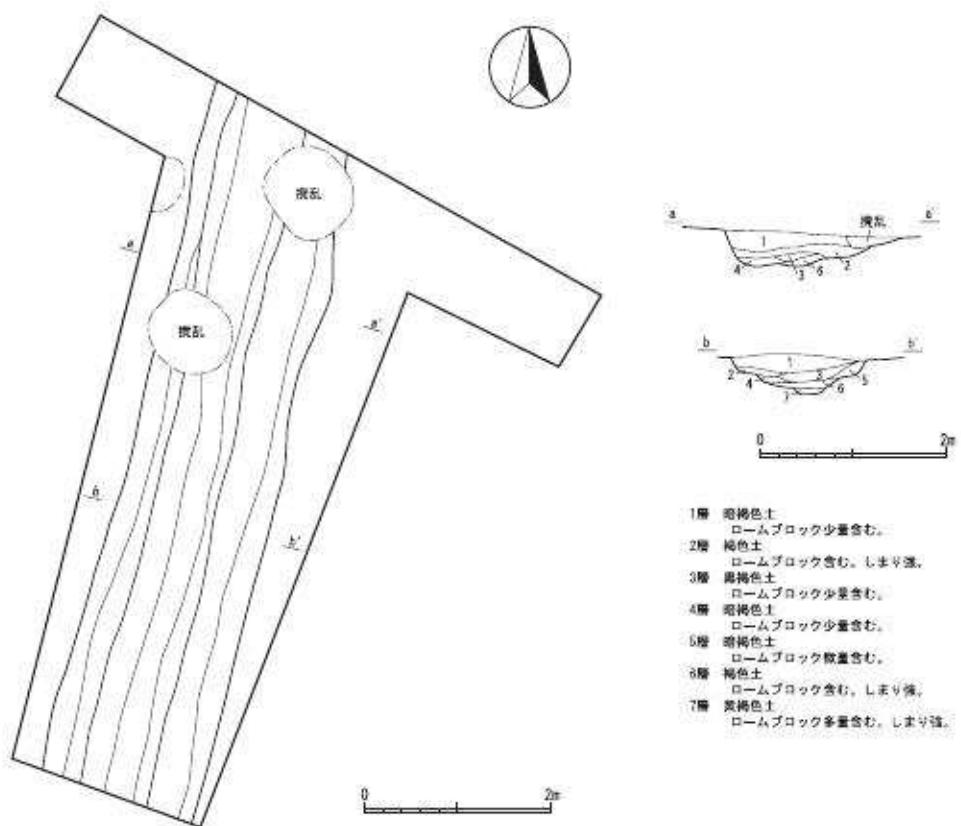


図 45 杉ノ井遺跡（第 8 地点）SD01 (S=1/80)



左上：SD01 確認状況（北から）
左下：SD01 土層（北から）
上：SD01 完掘（北から）

56 鹿の子遺跡（第51次）

①所在地 石岡市鹿の子1丁目9359番2
②調査面積 446m² ③調査日 平成26年3月24日
④調査原因 個人住宅建設 ⑤調査担当者 谷仲俊雄 ⑥調査概要 開発区域内に3ヶ所の試掘トレンチを重機にて設定し、遺跡の有無を確認した（図46）。その結果、T-1において堅穴住居跡1軒、土坑1基を確認した。遺構確認面までの深さは0.7～0.9m程度。表土および遺構確認面から奈良・平安時代の土器・瓦が出土している。

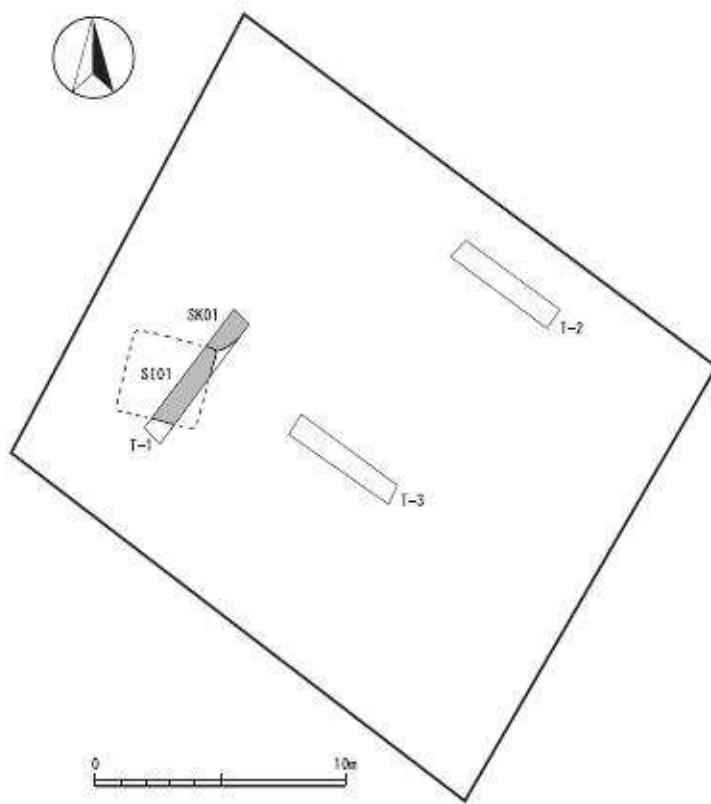


図46 鹿の子遺跡（第51次）全体図 (S=1/300)



写真36 鹿の子遺跡（第51次）T-1（北から）

III 測量調査

1 厚茂古墳群（平成 12 年度）

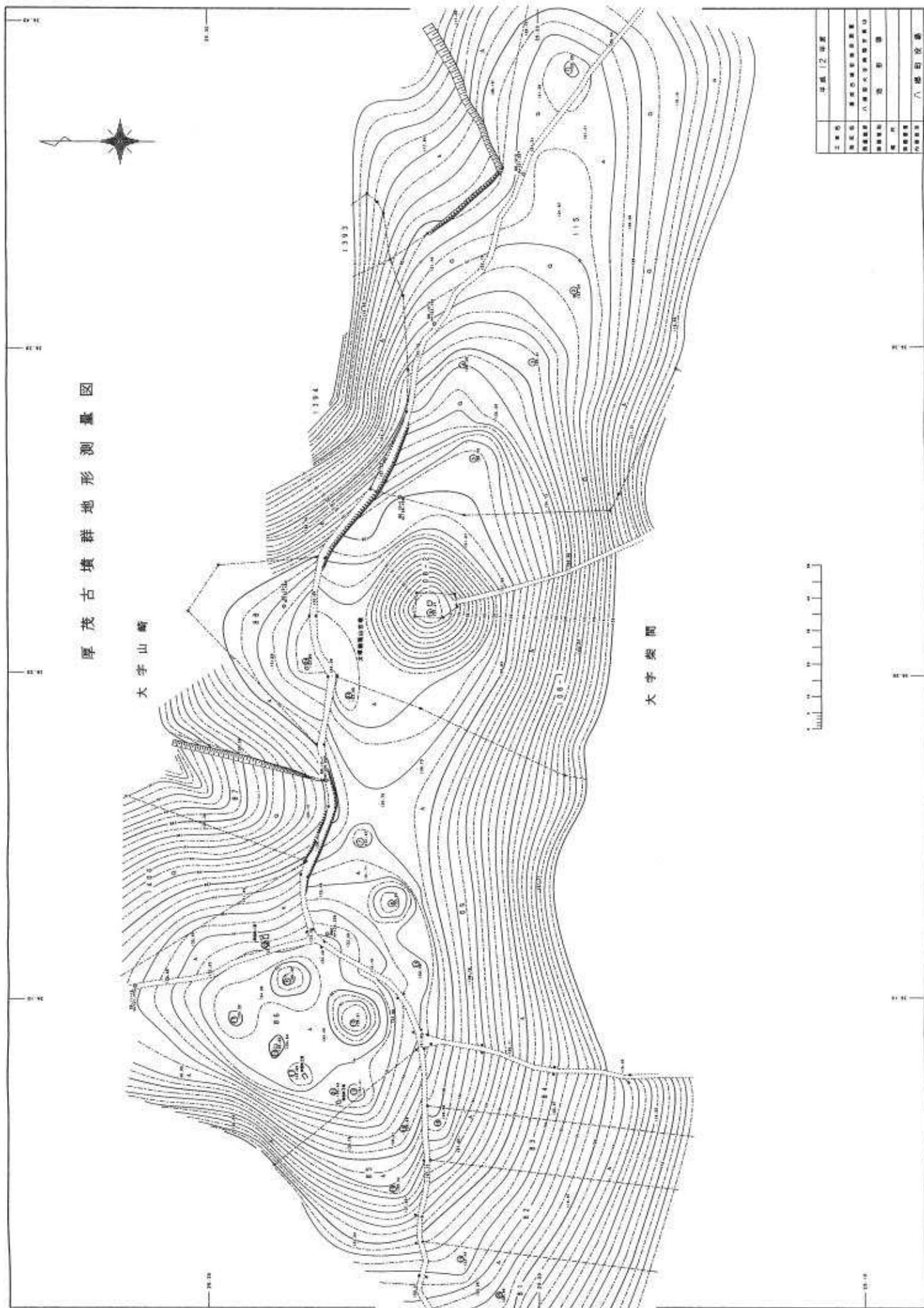
①所在地 石岡市柴間字裏山 108-1 ほか ②測量面積 30,000m² ③調査日 平成 13 年 1 月 12 日～3 月 15 日
④調査担当者 西宮一男（八郷町文化財保護審議会委員） ⑤調査概要 柴間地区後背の標高 100～130m の丘陵上に分布する古墳群である（図 1）。平成 11 年度実施の八郷町教育委員会の分布調査によれば、不整形の全長 15m 前後の前方後円墳 2 基、円墳 16 基の計 18 基の古墳が確認されている。平成 12 年度、緊急雇用対策事業として測量調査および開口していた石室・石棺の調査を実施した。調査は八郷町文化財保護審議会委員の西宮一男が担当し、業務は昭和測量株式会社に委託した。調査から 15 年近く経過し、担当者も死亡しているため不足している情報もある。だが、6 号墳（大塚権現山古墳）は径 40m を超える八郷地区最大規模の円墳であり、また調査した石室・石棺も終了後埋め戻されていることから、図面の提示を目的として報告する。

測量図によれば、24 基の古墳が確認できる（図 2）。最大規模墳は 6 号墳（大塚権現山古墳）で、東西径 45m、南北径 40m を測る大型の円墳である（図 3）。南側を除き、周溝が明瞭に確認できる。古墳の分布状況を見ると、大塚権現山古墳が周囲に小型円墳を伴うような形で立地するグループと、その西側の中～小型の円墳が群在するグループとが認められる。

開口していた石室・石棺 3 基については、図面作成を目的とした調査が行われた（図 4、写真）。以下、調査時の所見を記載する。22 号墳（無名墳 1 号）は、低い墳丘の東側裾部に横穴式石室が存在し、南側に開口する。全長約 3.4m、玄室長約 2.1m、羨道長約 1.3m。11 号墳（無名墳 2 号）は、低い墳丘の南側裾部付近に横穴式石室が存在し、南西方向に開口する。石材が一部抜き取られているが、無袖形石室の可能性が高い。直刀 1 が出土。21 号墳（無名墳 3 号）は、現状の墳裾から約 10m 隔てて箱式石棺が存在する。直刀 1 が出土。



図 1 厚茂古墳群位置図 (S=1/25,000)



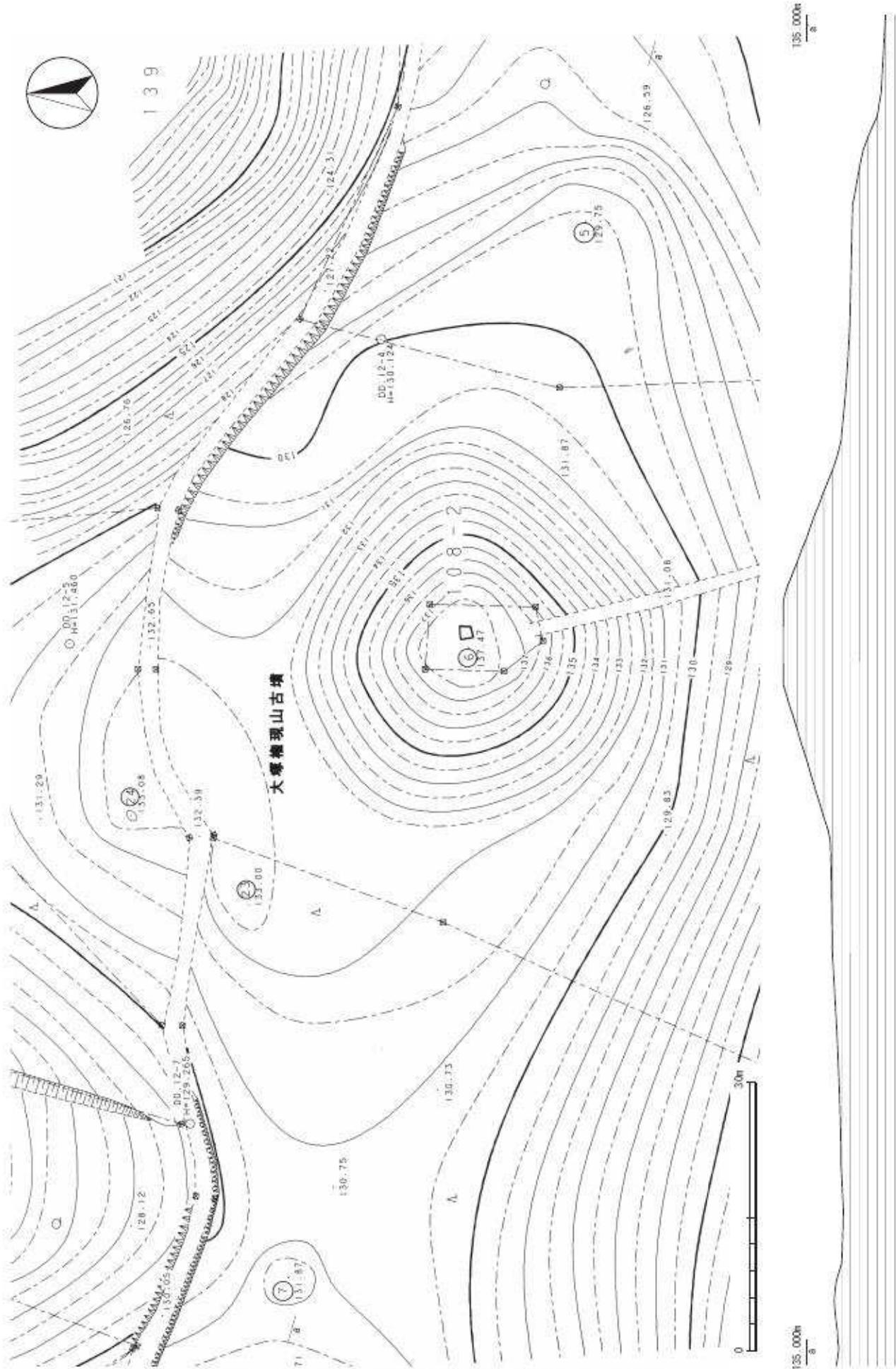
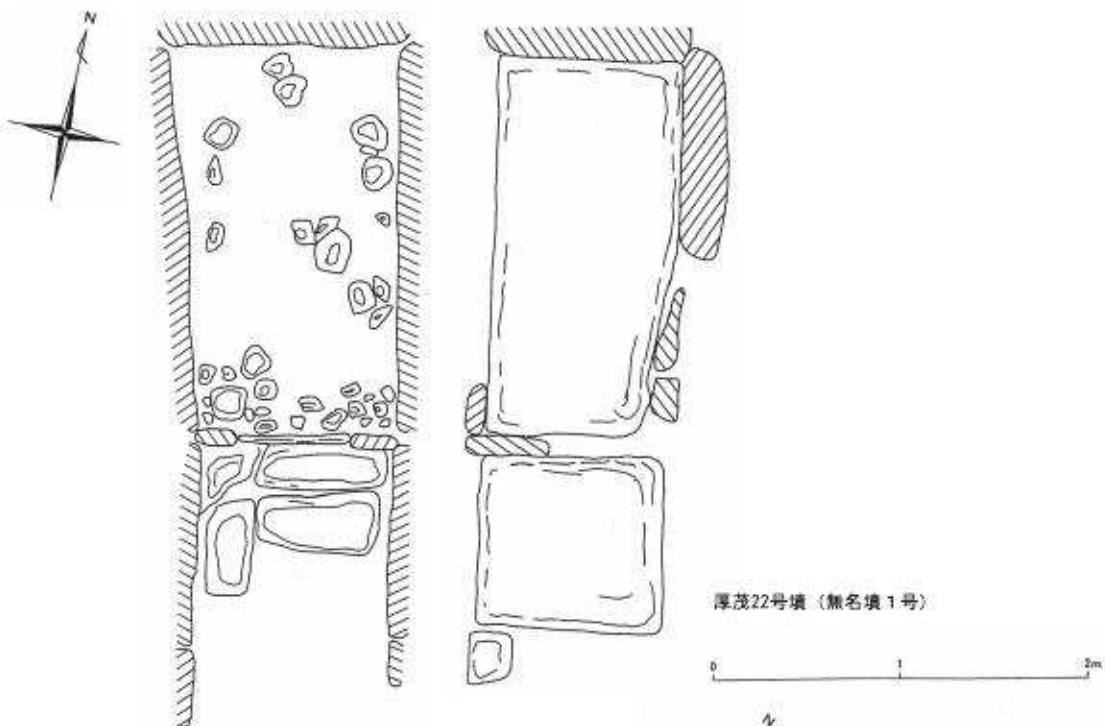
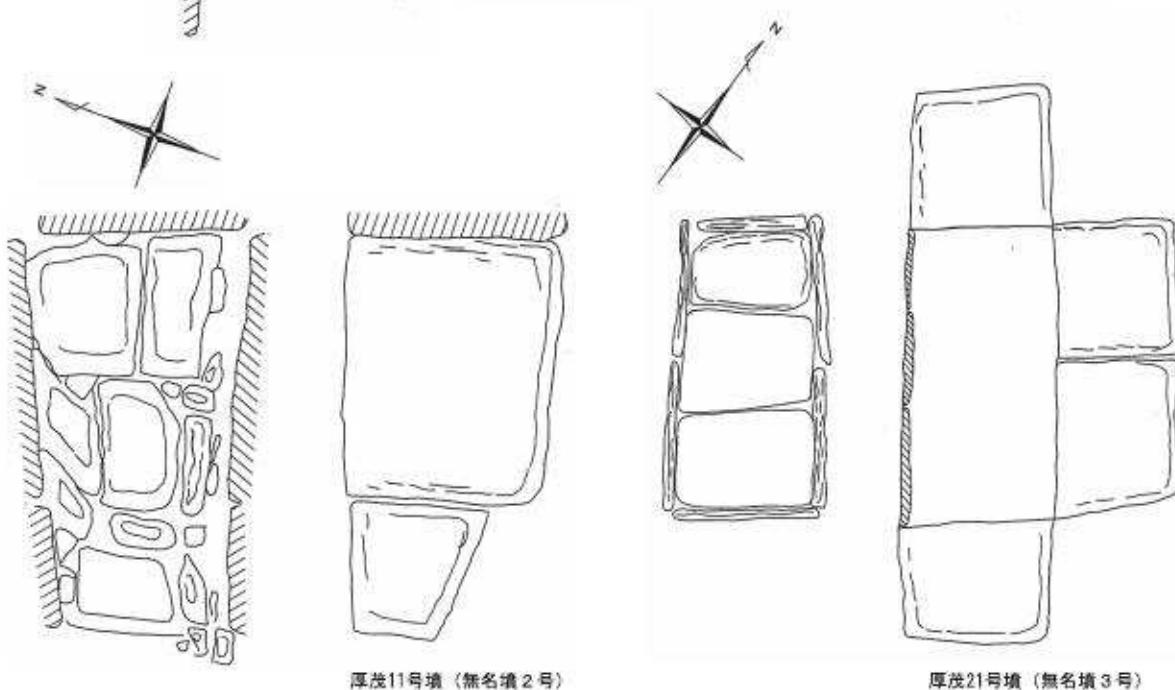


図3 厚茂6号墳（大塚権現山古墳）測量図（S=1/600）



厚茂22号墳（無名墳1号）



厚茂11号墳（無名墳2号）

厚茂21号墳（無名墳3号）

図4 厚茂古墳群 石室・石棺 (S=1/40)



左：22号墳石室、中央：11号墳石室、右：21号墳石棺（石棺右奥に直刀）

IV 確認調査

1 鹿の子遺跡（第13次）（平成7年度）

- ①所在地 石岡市鹿の子2丁目2710番ほか
②調査面積 1,020m² / 対象面積 約15,000m²

③調査日 平成8年2月15日～3月15日

④調査担当者 間宮政光（山武考古学研究所）

⑤調査概要 トレンチを幅2mで任意に南北方向を基準に10本設定した（図1、A～Jトレンチ）。確認した遺構・遺物は表1のとおりである。調査範囲はトレンチャによる搅乱が著しく、遺構としての判断は困難で、したがって明確に遺構と捉えられるものと遺構の可能性を有するものとに分けて記載している。

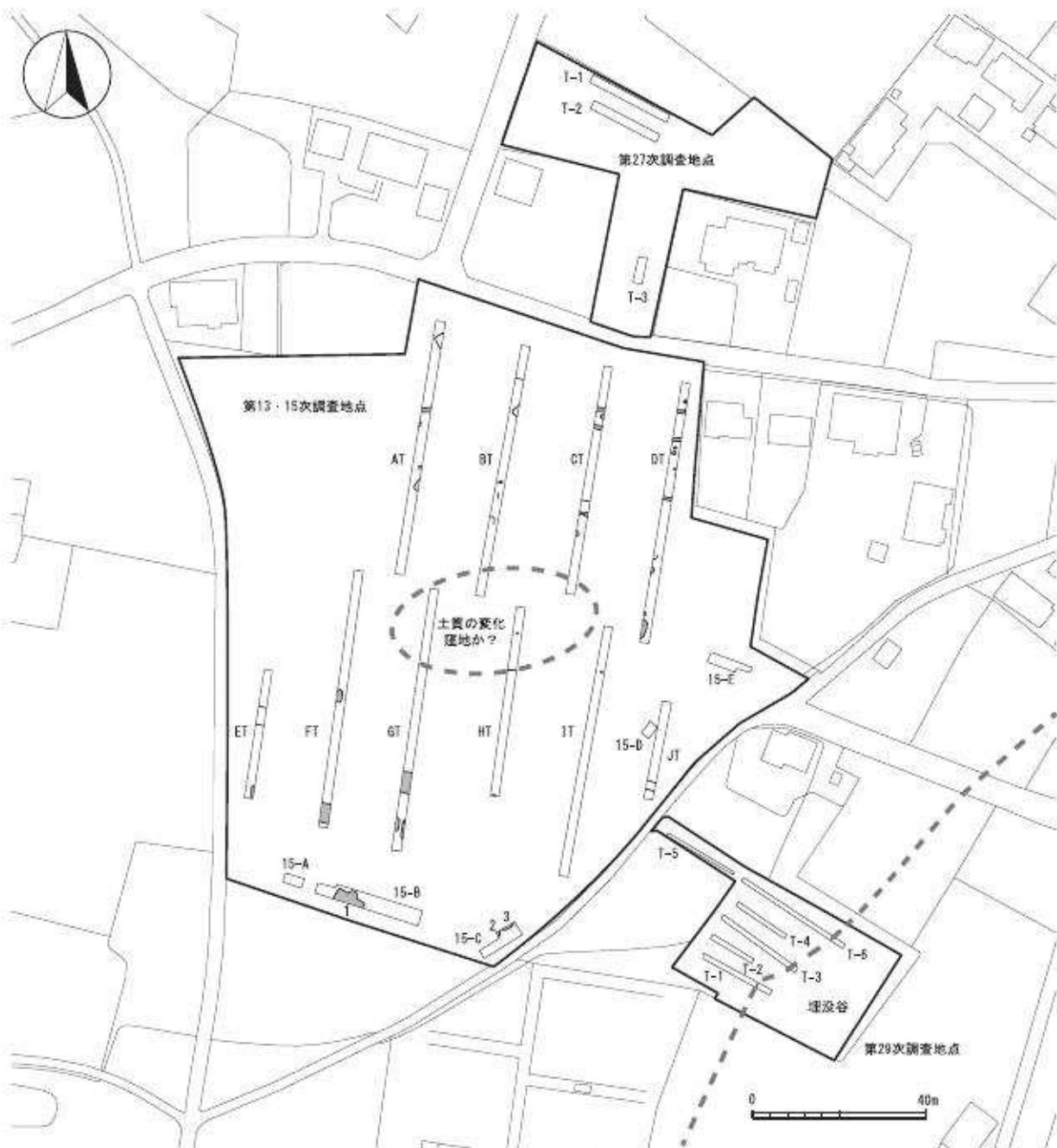


図1 鹿の子遺跡(第13次)全体図(S=1/1,500)

表1 トレンチ一覧

トレンチ番号	規 模	検出された遺構	検出された遺物	備 考
A	幅 長さ 60m	溝状遺構 遺構の可能性がある落ち込み	1条 5ヶ所	な し 南北方向のトレンチャーにより搅乱されている。
B	幅 長さ 60m	遺構の可能性がある落ち込み	5ヶ所	な し トレンチ北端より50m程南北方向のトレンチャーにより搅乱されている。
C	幅 長さ 53m	溝状遺構 土坑	2条 1基	縄文前期土器片 トレンチャーの被害なし。
D	幅 長さ 60m	住居跡あるいは大形の遺構 溝状遺構 土坑及びビット	1基 3条 10基	縄文前期土器片、中期土器片 土師器片、 鉄滓 トレンチャーの被害なし。
E	幅 長さ 30m	住居跡あるいは大形の遺構 遺構の可能性がある落ち込み	1基 1ヶ所	土師器、甕片、 須恵器片（环・蓋）、 鉄滓 東西方向のトレンチャーにより搅乱されている。
F	幅 長さ 60m	住居跡あるいは大形の遺構 遺構の可能性がある落ち込み	2基 1ヶ所	土師器、甕片、 須恵器片（高台付环・蓋・甕）、 鉄滓（椀形滓） 東西・南北方向のトレンチャーにより搅乱されている。
G	幅 長さ 60m	住居跡あるいは大形の遺構	3基	縄文前期土器片、土師器片（甕）、 須恵器片（甕）、陶器片、羽口、 鉄滓、炉壁 東西方向のトレンチャーにより搅乱されている。
H	幅 長さ 44m	土坑及びビット	2基	縄文前期土器片、土師器片（甕）、 須恵器片、陶器片、羽口、鉄滓 トレンチャーの被害なし。
I	幅 長さ 60m	ビット	1基	土師器片、 須恵器片（甕）、 鉄滓 東西・南北方向のトレンチャーにより搅乱されている。
J	幅 長さ 23m	遺構の可能性がある落ち込み	1ヶ所	土師器（甕）、 須恵器（甕）、 鉄滓 東西・南北方向のトレンチャーにより搅乱されている。

住居跡あるいは大形の遺構 7 基
 溝状遺構 6 条
 土坑及びビット 14 基
 遺構の可能性のある落ち込み 13ヶ所

⑥遺物 縄文土器片（前・中期）、土師器片（甕）、須恵器片（环・蓋・甕）、陶器片、鉄滓、羽口がトレンチ内より出土している。

⑦まとめ 本遺跡は、官営工房跡として知られる鹿の子遺跡の一角にあたり、鉄滓が多数表面採集されていることから鍛冶工房の存在が想定されていた。確認調査の結果、10本設定したトレンチの内7本がトレンチャー等の耕作により著しく搅乱を受け、明確に住居跡あるいは大形の遺構と想定されるものは7基にとどまった。トレンチャーの被害をかろうじて被っていないのは調査区東側の僅かな範囲で、全体的な遺構・遺物の検出は南西側に集中する傾向を示している。

遺構の時期については、縄文時代前・中期の土器片が出土していることから、この時期までさかのほると推測される。遺跡の主体となる時期は、出土遺物からのみ判断すると、8世紀後半から9世紀代と想定され、該期の土器片に混じって鍛冶滓が多量に出土している。このなかには椀形滓および羽口が見られるなど、鍛冶工房が営まれていた可能性は極めて高く、時期的にも鹿の子C遺跡と符号する。なお、現況地形はほぼ平坦であるものの、トレンチを掘り下げた結果、遺跡中央部が窪地となっている可能性が高く、この地形と鍛冶工房とは関連するのか否か興味深い検出である。

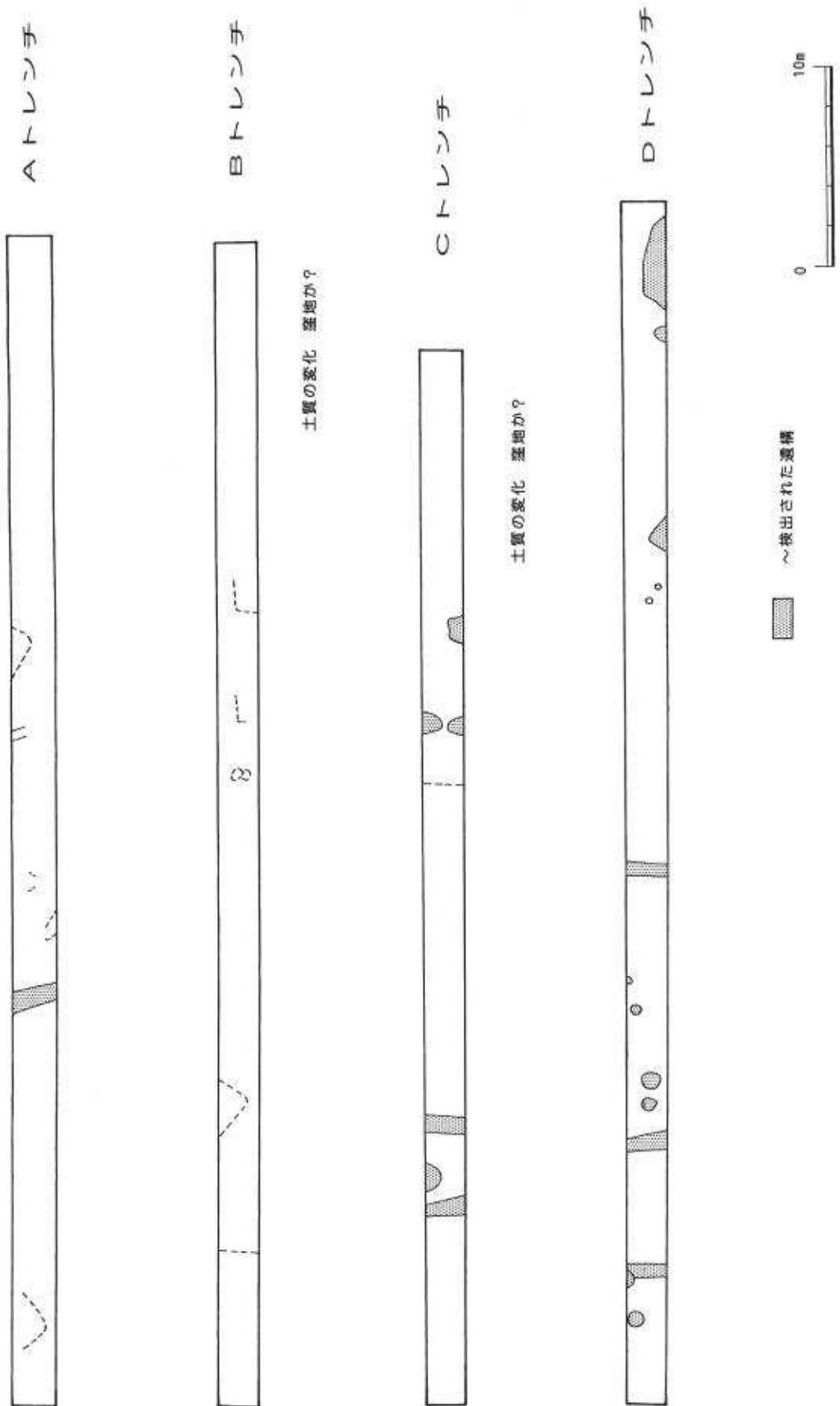


図2 A ~ D トレンチ (S=1/300)



E トレンチ



F トレンチ



G トレンチ



H トレンチ



I トレンチ



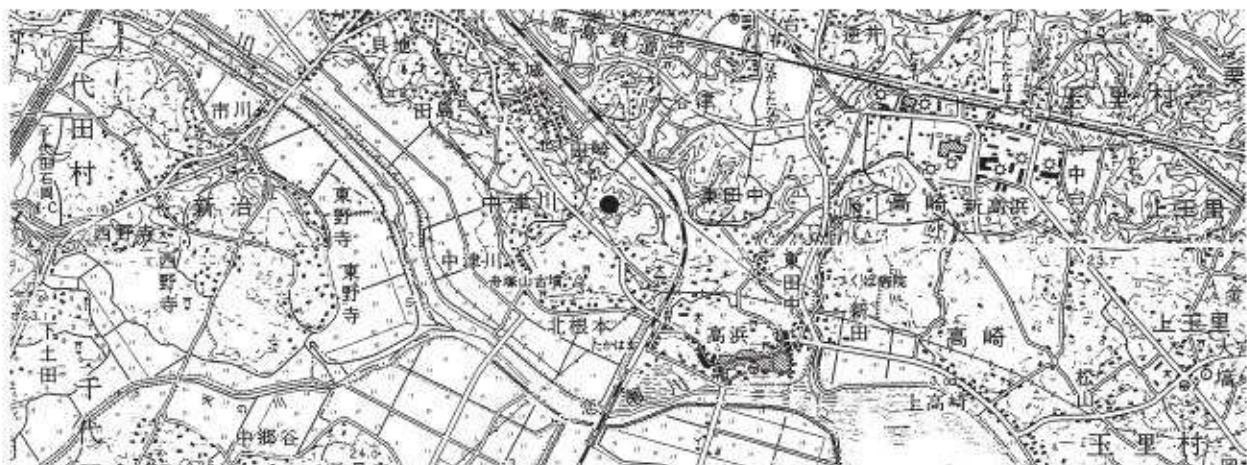
~突出された遺構



図3 E～J トレンチ (S=1/300)

2 舟塚山古墳群 7号墳（平成13年度）

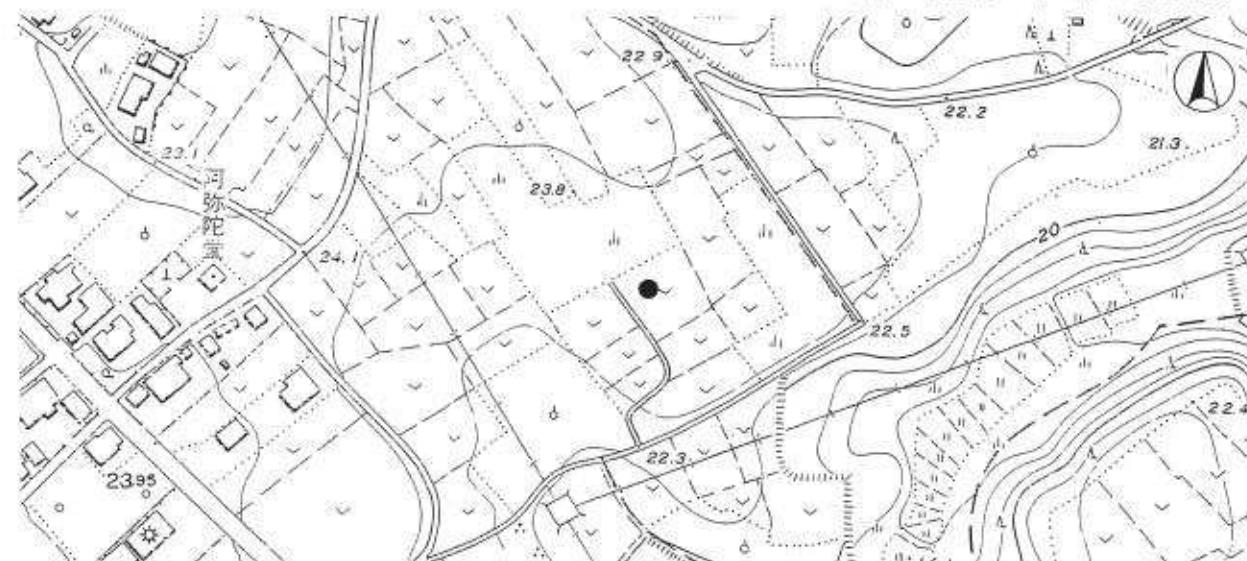
- ①所在地 石岡市中津川68ほか ②調査面積 約240m² ③調査日 平成14年3月4日～3月8日
- ④調査担当者 木植 繁（石岡市教育委員会）、土生朗治（山武考古学研究所）



（国土地理院発行 1/50,000地形図）



（明治30年発行 1/25,000迅速図）



第1図 遺跡の位置図

（1/2,500都市計画図）

1. 立地と歴史環境

舟塚山古墳群は石岡市街の南東約2.5kmの高浜・北根本・中津川地区にある。古墳群は恋瀬川を見下ろす標高24m前後の台地上にあり、この広い台地上の縁辺部沿いにいくつかのまとまりを持って存在している。舟塚山古墳群南東端にあたる高浜地区からは試掘調査によって、前期古墳の周溝と推定される溝及び溝内出土の壺形埴輪が発見されている。北根本地区の舟塚山古墳は関東地方で2番目の大きさを誇る巨大な前方後円墳であるが、墳丘からは円筒埴輪が、周溝からは5世紀後半頃の小形壺形土器が出土している。周辺には舟塚山古墳と前後する時期の大古墳や、マウンドの削平された終末期の方墳等も存在している。舟塚山7号墳は古墳群の北部、山王川側の谷津に面した台地上にあり、この地域は分布調査によって縄文時代から近世にかけての遺跡(中津川遺跡)として周知されている。舟塚山7号墳は、昭和30年代に豊崎卓氏によって「…天王塚、(七二、七三、七四、七五、七六、七八)は平足塚に相対するものらしく、…今は僅かに縦横夫々十四米、九、五米の残丘を残すだけであるが、原形は全長九〇米、後円部の直径五〇米、前方部が南向きの前方後円墳であったろうと推定される。…」と述べられ、大古墳である可能性を示唆していた。

注1 豊崎卓 「古墳時代の遺跡と遺物」『石岡のあけぼの』石岡市史編纂資料第13号 昭和36年

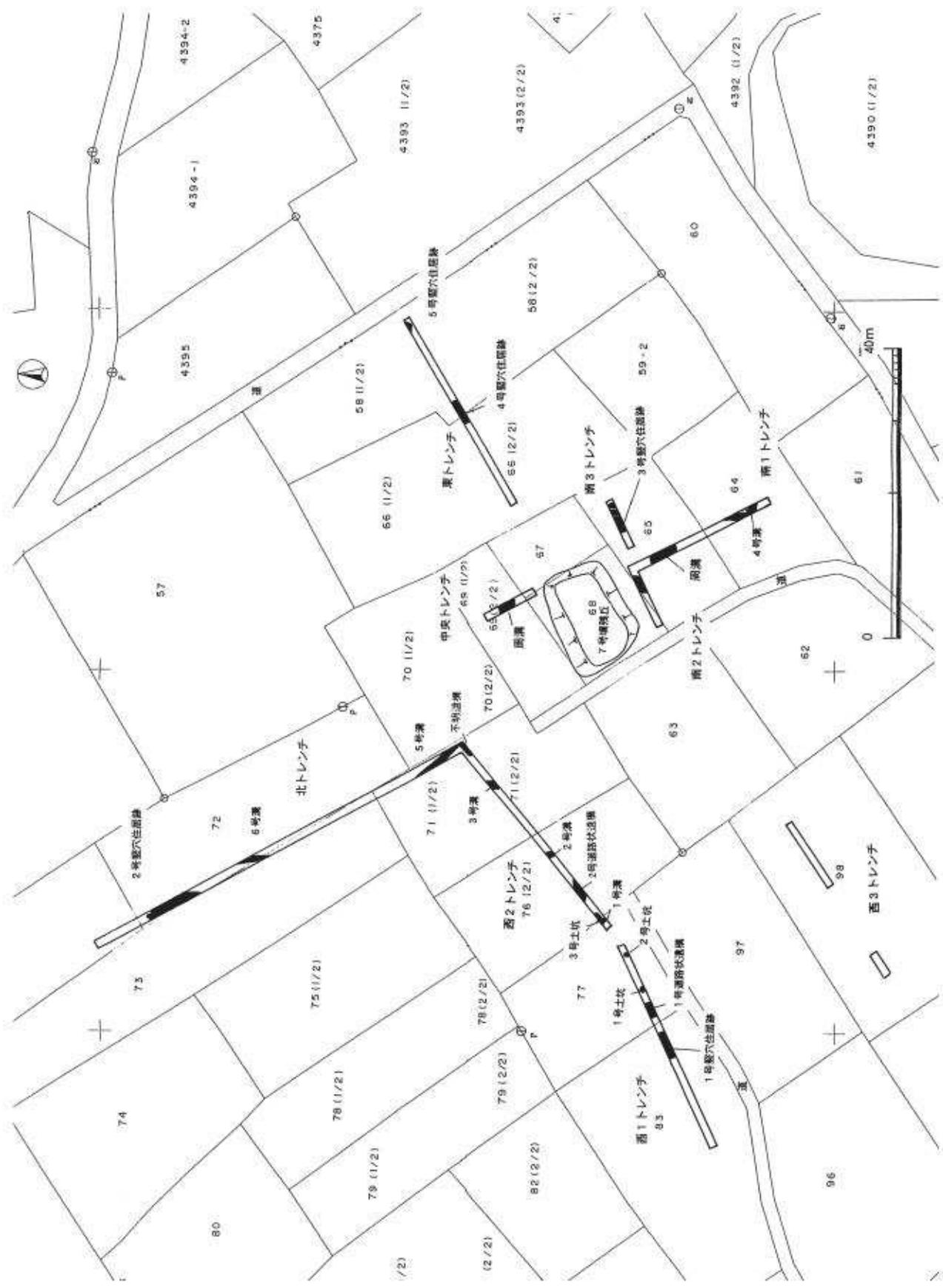
2. 調査の概要

(1) トレンチ試掘調査

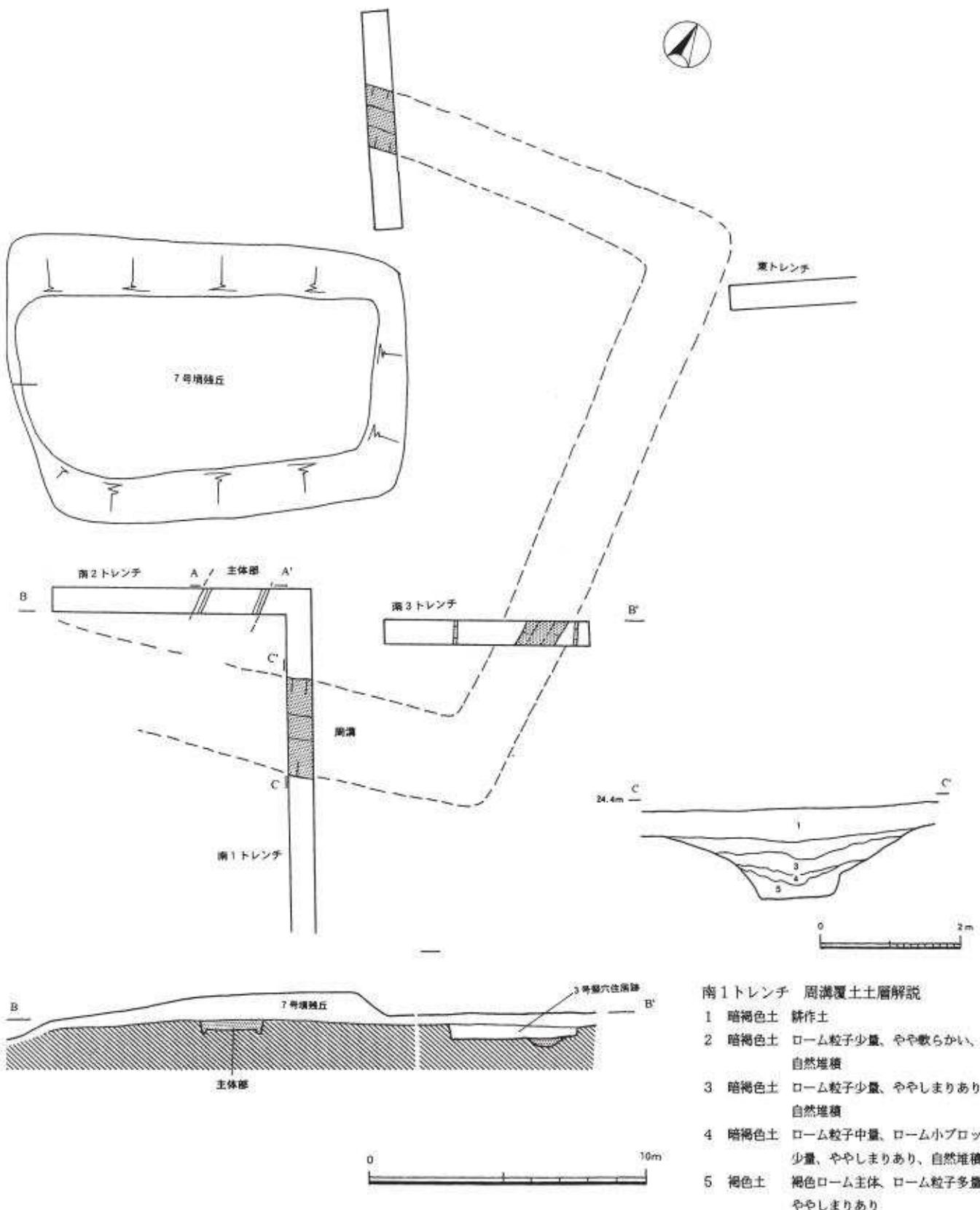
舟塚山7号墳が全長90mの大古墳であることを想定して、残丘部分を中心に第2図のように東西南北方向に9本の細長いトレンチを設定した。各トレンチの遺構・遺物の検出状況は表1の通りである。

表1 トレンチ内確認遺構一覧表

遺構番号	確認地点	幅(m)	深さ(m)	出土遺物	備考
7号墳主体部	南2トレンチ	2.2	0.34	縄文細片	
7号墳周溝	南1・3・中央トレンチ	3.7	0.96	縄文細片	
1号竪穴住居跡	西1トレンチ	4	0.45	土師器・須恵器	平安時代
2号竪穴住居跡	西2トレンチ	—	0.45	土師器・須恵器	奈良時代
3号竪穴住居跡	南3トレンチ	4.5	0.5	土師器・縄文細片	奈良・平安時代か
4号竪穴住居跡	東トレンチ	—	0.1	土師器・須恵器	奈良・平安時代
5号竪穴住居跡	東トレンチ	—	0.1	弥生後期土器片	
1号土坑	西1トレンチ	1.1	—		
2号土坑	西1トレンチ	0.4	—		
3号土坑	西2トレンチ	1.5	0.2		
1号溝	西2トレンチ	0.5	0.3		
2号溝	西2トレンチ	0.9	0.1		
3号溝	西2トレンチ	1.6	0.1		
4号溝	南1トレンチ	0.9	0.2	縄文破片	
5号溝	西2トレンチ	0.7	—		
6号溝	西2トレンチ	0.9	0.15		
1号道路状遺構	西1トレンチ	2.3	—	縄文細片	硬化面を持つ
2号道路状遺構?	西2トレンチ	2.2	0.5		硬化面を持つ
不明遺構	西2トレンチ	—	0.1	土師器片	竪穴住居跡か



第2図 トレンチ設定状況及び遺構確認状況図



第3図 7号墳周辺の遺構確認状況及び遺構土層断面図

(2) 7号墳の形態

南1・南3・中央トレンチから上幅約3.7m、下幅約1mの逆台形をした溝状遺構及び石材の抜き取られた主体部が確認された。溝状遺構は、南1トレンチで東西方向に直線的に延びており、中央トレンチの東西方向の溝とほぼ平行している。南3トレンチの溝状遺構は竪穴住居跡の床下から竪穴住居に上半部を壊されて確認されたが、南北方向に直線的に延びており、主体部の主軸方向とほぼ一致している。3地点の溝状遺構は覆土・断面形が共通し、方向性も主体部を含めて関連が見られる。さらに周囲のトレンチからは同形態の溝状遺構は確認されなかった。以上の点からこれらの3本の溝は同一の遺構の溝の可能性が高く、溝の確認された範囲の南寄りに主体部を持つ点から見て、方形墳の周溝と考えられる。

(3) 主体部の構造

石室は、南2トレンチから幅2.2mの長方形になると思われる落ち込みとして確認された。覆土は暗褐色土主体でややしまりがあり10cm大の片岩礫が、底面付近や3層上面で確認された。底面はローム主体の土で整地され、僅かに凹凸が見られ、片岩片が少量散在していた。床面の壁際には壁の掘り方にそって幅15cm、深さ25cm程の溝があり、溝内には軟らかな黒褐色土が堆積していた。溝は側壁石材の埋設部の抜き取痕跡と見られる。左側壁側では土層断面でも抜き取り痕跡が確認されている。古墳に関わる遺物は石材片以外確認されなかった。全体形状は不明であるが、幅約1.8mの片岩の板石を使用した板石組みの石室と推測される。主体部の底面は、南側の周溝の底面の深さと較べて約24cm浅くなっている。

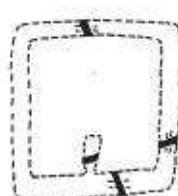
(4) 出土遺物

古墳周溝からは、縄文時代前期前半代の土器片や弥生後期の土器片が出土しているが、古墳に関わる遺物は確認されなかった。南3号トレンチの周溝は、竪穴住居跡(SI 2)と重複しており竪穴住居跡よりも古いが、竪穴住居跡の覆土からは時代を示す遺物が見られなかった。

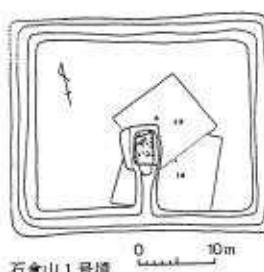
3. まとめ

舟塚山7号墳は、主体部に片岩製の板材を使用している点から見て、7世紀中葉～後葉頃につくられた、板石組の側壁構造を持つ横穴式石室の可能性が考えられる。現在共有地になっている中津川68番地の残丘部分を中心とした一辺約19mの方形の古墳と見られる。

〈比較参考図〉



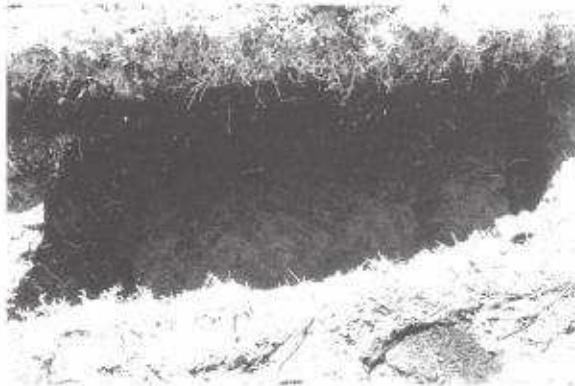
舟塚山7号墳墳形想定図



石倉山1号墳



7号墳残丘の現況



主体部



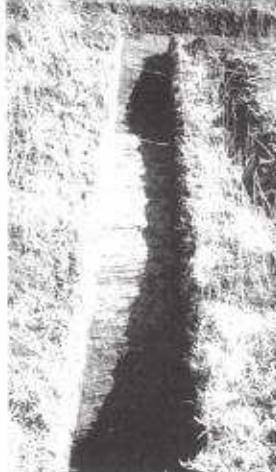
周溝土層断面(南1トレンチ)



周溝(南1トレンチ)



西1トレンチ遺構確認状況



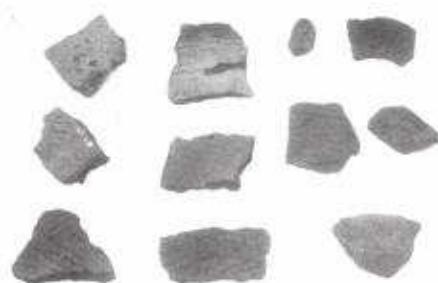
南1トレンチ



南2トレンチ



東トレンチ遺構確認状況



出土遺物(縄文土器・弥生土器片)

V 埋蔵文化財包蔵地の新規登録と範囲変更（平成 25・26 年度）

石岡市には現在 398 の埋蔵文化財包蔵地が存在する。これらの埋蔵文化財包蔵地の範囲を示すものとして、『石岡市遺跡分布調査報告』（石岡市教育委員会・石岡市遺跡分布調査会 2001）および『茨城県遺跡地図』（茨城県教育委員会 2001）が発行されている。だが、発行後の現地踏査や試掘調査などによって新規発見や範囲変更が生じていることから、平成 24 年度までの新規発見・範囲変更については『市内遺跡調査報告書 第 8 集』（2013 年）に報告した。今号ではそれに続き、平成 25・26 年度の新規発見・範囲変更について、一覧表の形で報告する。なお、包蔵地の位置・範囲については既存のものを含め、「いばらきデジタルマップ」で公開している。

新規登録遺跡

遺跡番号	遺跡名	所在地	時代	種別	新規登録年度
八郷-145	柿岡鴻の巣遺跡	柿岡 3606-1 ほか	古墳、奈良・平安	集落跡	平成 25 年度
八郷-146	部原五本松遺跡	部原 1-13 ほか	旧石器、縄文、奈良・平安、中世、近世	交通遺跡	平成 25 年度
八郷-147	下林愛宕山遺跡	下林字愛宕山 603-2 ほか	古墳、奈良・平安、中世	集落跡	平成 26 年度
石岡-251	東大橋逆井遺跡	東大橋字逆井 2840 ほか	縄文	包蔵地	平成 26 年度

包蔵地範囲・位置変更

遺跡番号	遺跡名	所在地	時代	種別	範囲変更年度
石岡-059	宮部遺跡	若宮 2 丁目 2-38 ほか	縄文、奈良・平安、中世、近世	集落跡	平成 25 年度

報告書抄録

ふりがな	しないいせきちょうさほうこくしょ
書名	市内遺跡調査報告書
副書名	
巻次	第 10 集
編集者名	谷伸 俊雄
著者名	谷伸 俊雄
編集機関	石岡市教育委員会
所在地	〒315-0195 茨城県石岡市柿岡5680番1 TEL 0299-43-1111
発行年月日	2015(平成 27) 年 3 月 31 日

ふりがな 遺跡名	ふりがな 所在地	市コード	北緯	調査開始日	調査 面積	調査 原因	主な遺構 (時期)
		遺跡番号	東経	調査終了日			
ふなづかやま 舟塚山古墳群	いしおかしなかつがわ 石岡市中津川68ほか	08205 153	36° 10' 21" 140° 17' 29"	20020304 20020308	60m ²	範囲内容 確認調査	古墳 (古墳時代終末期)
要約	舟塚山古墳群 7 号墳の範囲内容確認のための調査を行った。7 号墳は一辺約19mの方墳で、主体部は石材が抜き取られていたが、板石組の横穴式石室と想定できたことから、古墳時代終末期の古墳と考えられる。						

市内遺跡調査報告書

第 10 集

2015(平成 27) 年 3 月 31 日発行

編集 石岡市教育委員会 文化振興課

発行 石岡市教育委員会

〒315-0195 茨城県石岡市柿岡5680-1

TEL 0299-43-1111(代)

FAX 0299-43-3130

印刷 共和印刷株式会社

〒315-0001 茨城県石岡市石岡2747-68